

愛知の人口動向

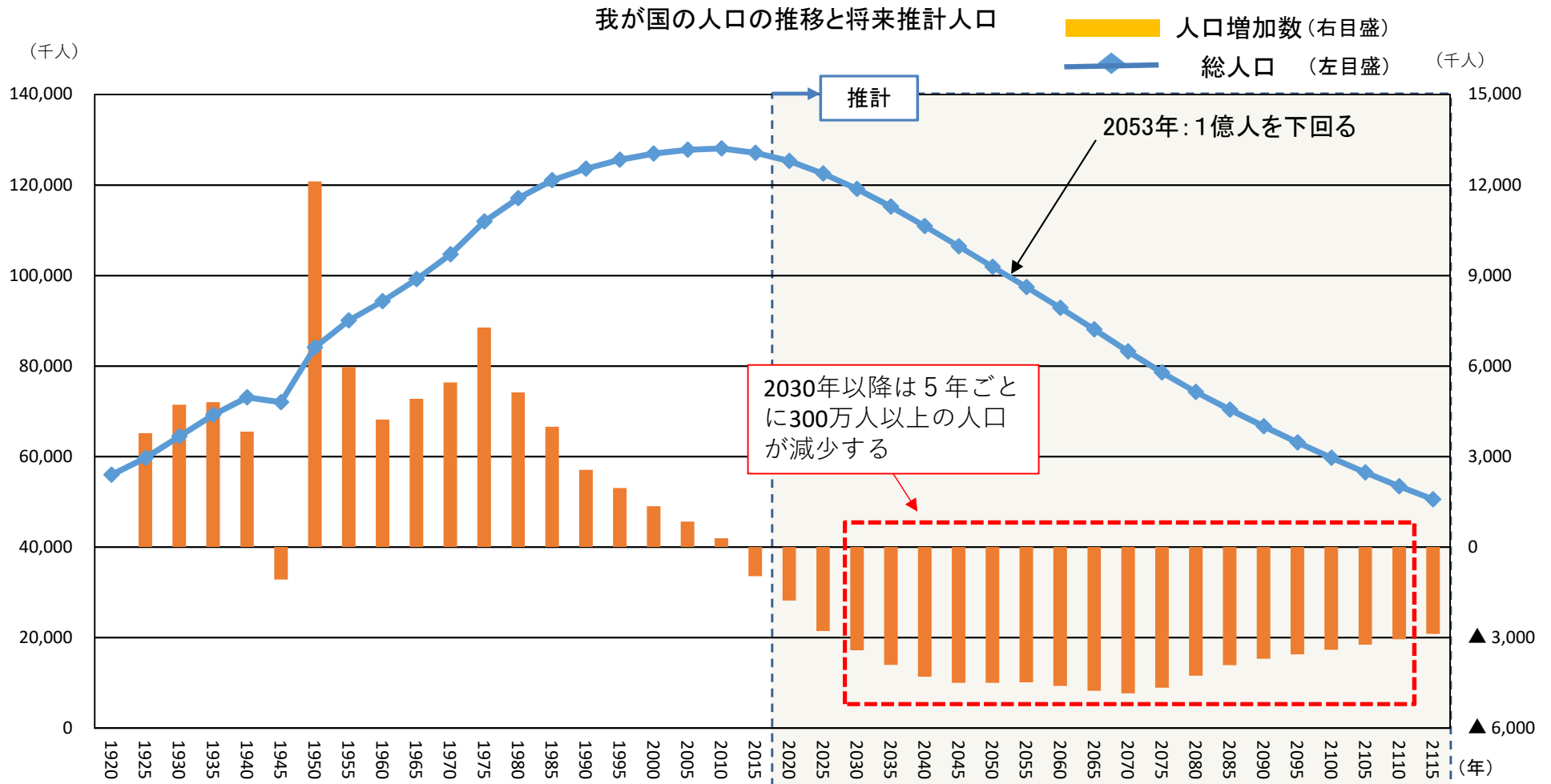
愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略検証会議資料

平成30年8月2日

日本の人口の推移と将来人口



- 我が国の人口は、2008年の1億2,808万人をピークに減少している。
- 国立社会保障・人口問題研究所の推計(平成29年推計(出生・死亡中位推計))によると、2053年には1億人を下回り(9,924万人)、2065年には8,808万人になるとされている。

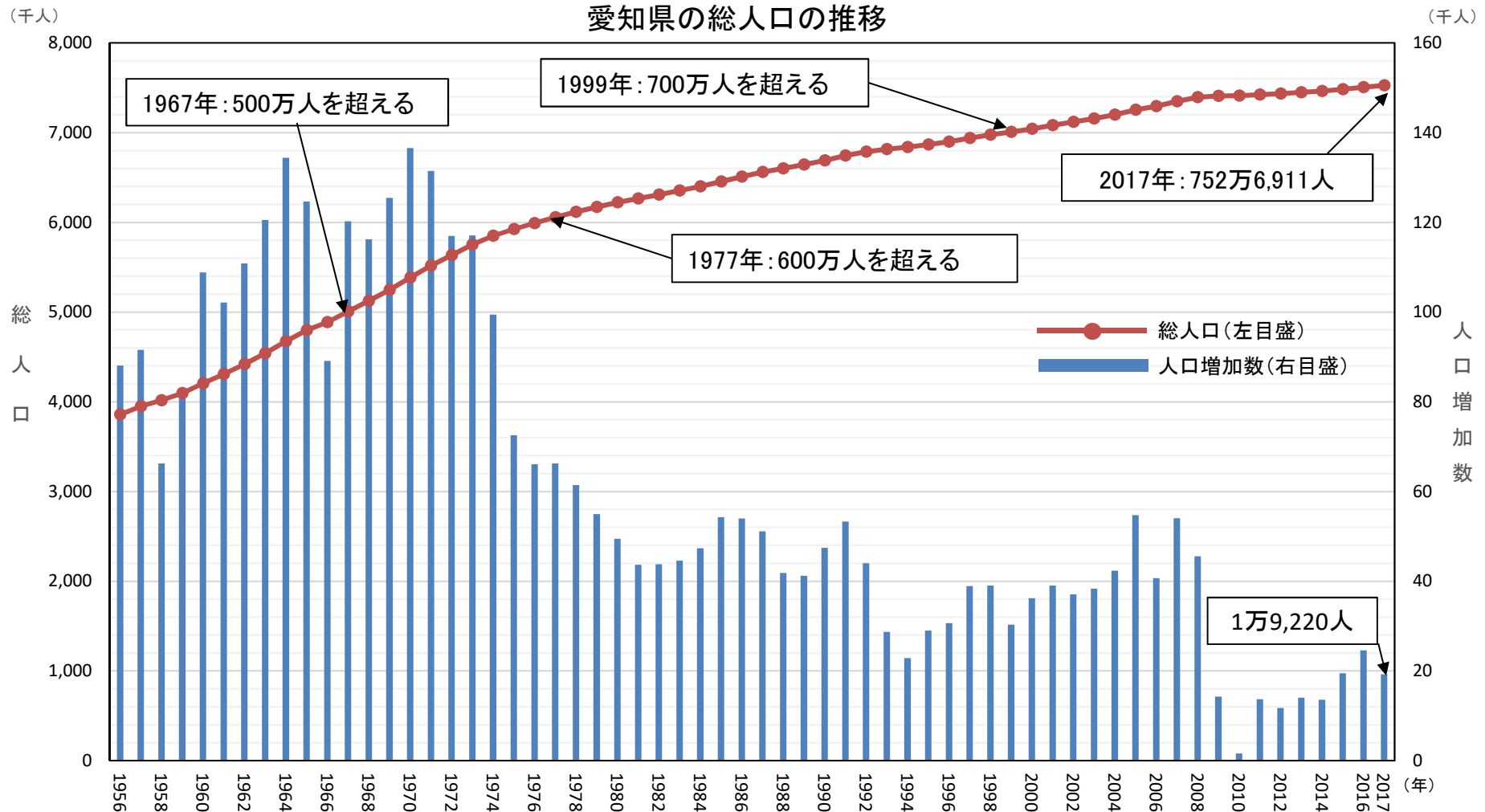


出典: 2015年までは総務省「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」をもとに作成

愛知県の人口の推移



○ 本県の人口は2017年10月1日時点で752万6,911人となっており、我が国の人口が減少する中であって、人口増加を維持している。



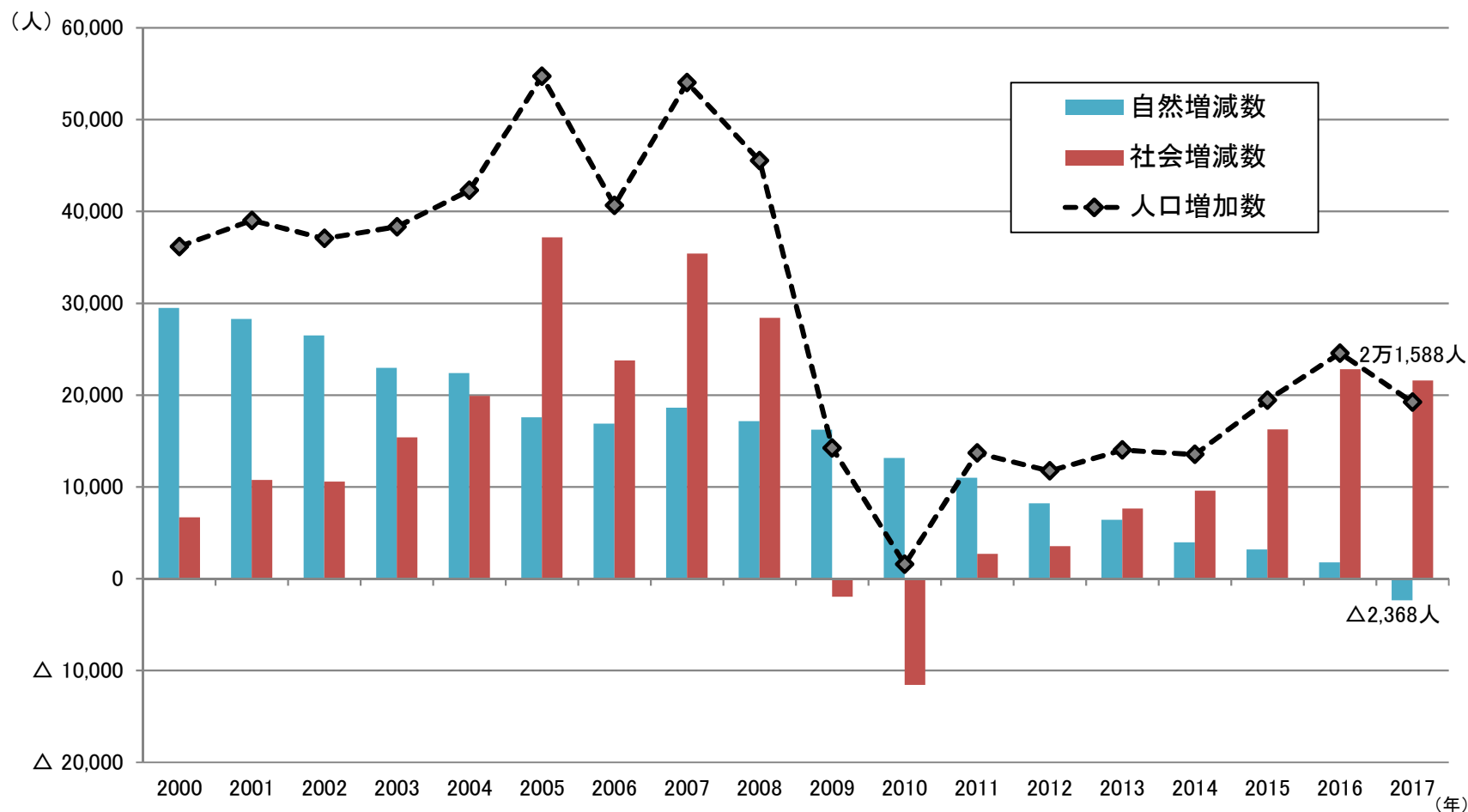
出典：愛知県県民文化部統計課「あいちの人口」をもとに作成 ※総人口は各年10月1日現在、人口増加数は前年10月～当年9月

愛知県の人口増減数の推移(要因別)



○ 本県の人口の自然増減数は、2017年に初めて減少に転じている。一方で、社会増減数は、良好な経済環境の中で、2年連続で2万人を超え、社会増によって人口増加を維持している状況にある。

愛知県の人口増減数の推移(要因別)

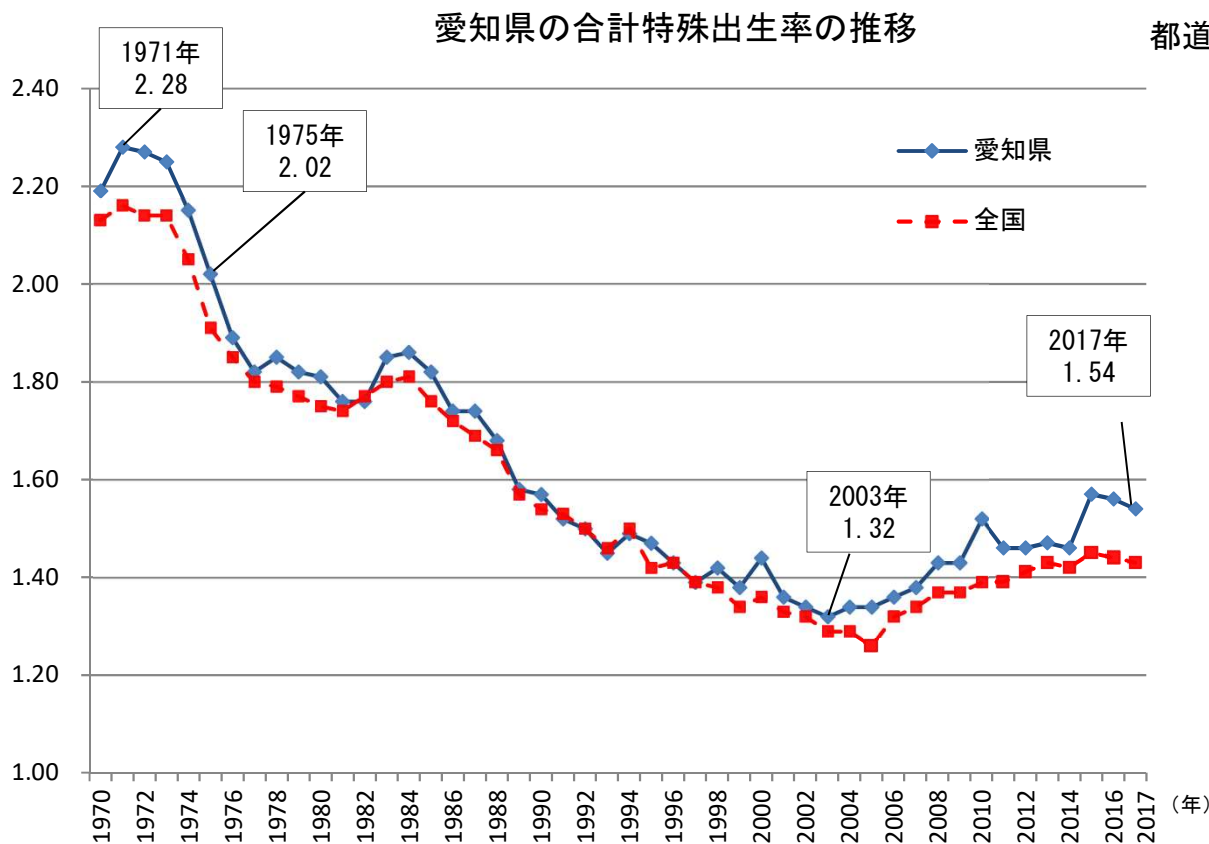


出典:愛知県県民文化部「あいちの人口」をもとに作成 ※人口増減数は前年10月～当年9月

合計特殊出生率の推移



- 合計特殊出生率は、1975年に人口置換水準(2.07)を下回り、2003年には1.32まで低下したが、その後は緩やかな上昇傾向が続いてきた。2017年の合計特殊出生率(概数)は、1.54となっている。
- 大都市圏の出生率が低い水準にある中で、全国平均(1.43)を上回り、全国18位となっている。



都道府県別合計特殊出生率 (2017年 (概数))

順位	都道府県	合計特殊出生率
1	沖縄県	1.94
2	宮崎県	1.73
3	島根県	1.72
4	長崎県	1.70
5	鹿児島県	1.69
18	愛知県	1.54
39	大阪府	1.35
39	秋田県	1.35
41	千葉県	1.34
41	神奈川県	1.34
43	奈良県	1.33
44	京都府	1.31
44	宮城県	1.31
46	北海道	1.29
47	東京都	1.21

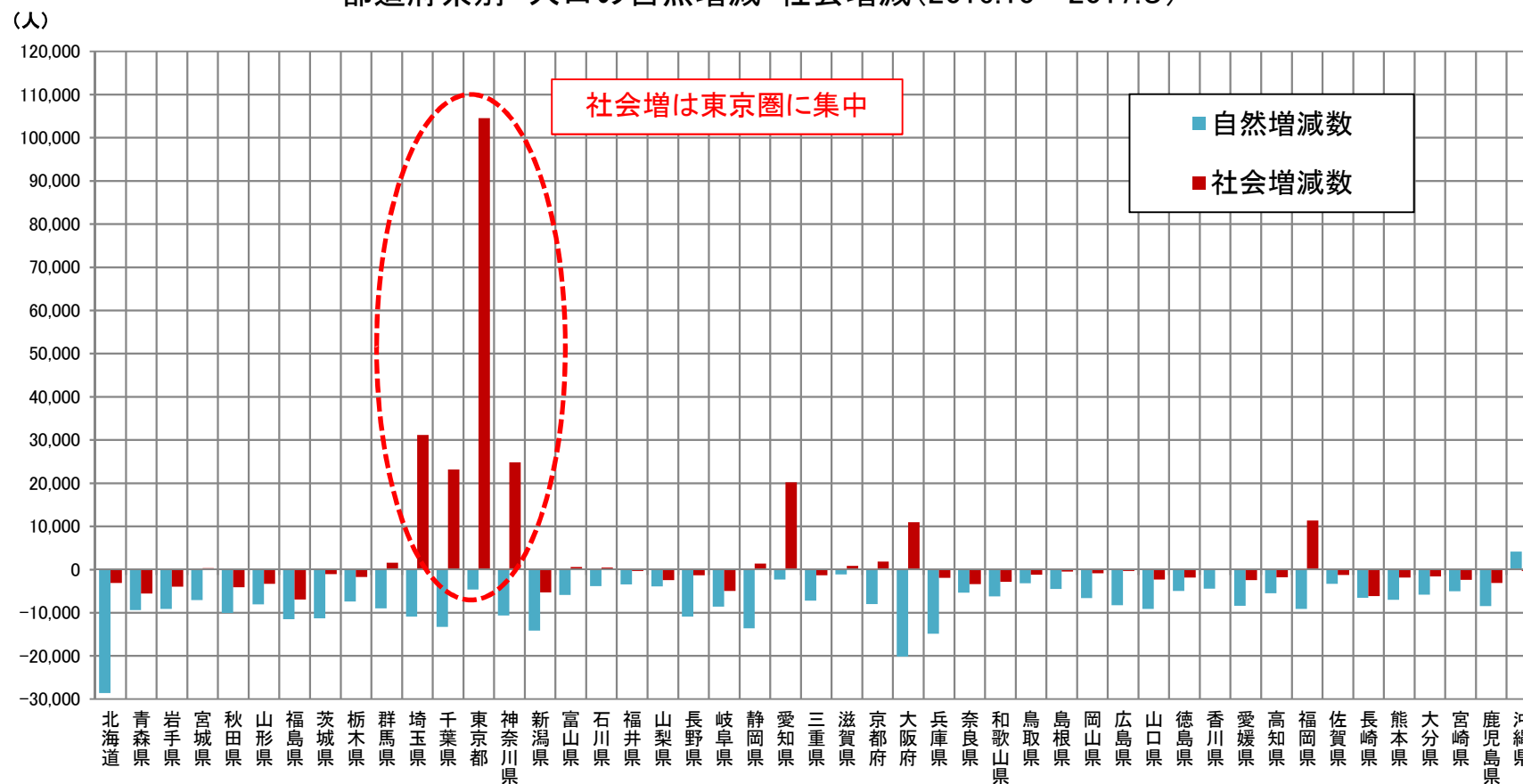
出典:厚生労働省「人口動態調査」をもとに作成※2017年は概数

人口の自然増減・社会増減



○ 自然増は沖縄県のみとなっている。社会増は東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県、愛知県、福岡県、大阪府などの14都府県で、東京圏に集中している。

都道府県別 人口の自然増減・社会増減(2016.10~2017.9)



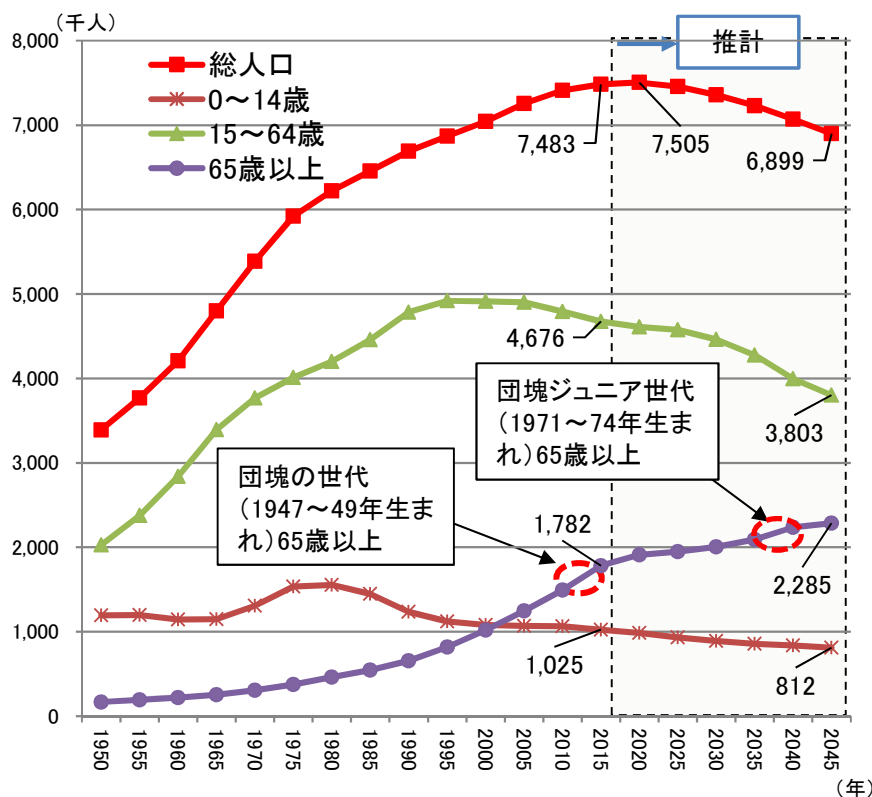
出典:総務省「人口推計」をもとに作成

愛知県の人口の推移と将来人口推計(年齢3区分)

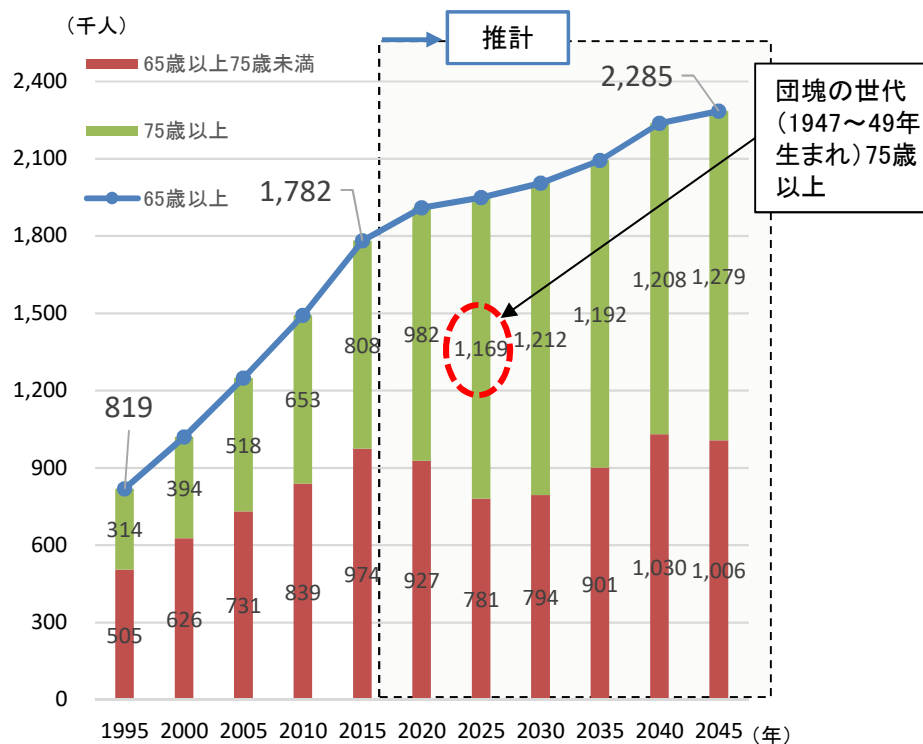


- 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が2018年3月に公表した将来人口推計によると、本県の人口は2020年をピークに減少に転じ、2045年には、689万9千人に減少する見込みとなっている。
- 年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)が減少する一方で、65歳以上の高齢者が大きく増加している。今後、団塊の世代が75歳以上となる2020年~2025年にかけて、75歳以上の人口が増加し、65~74歳の人口を大きく上回ると推計される。

愛知県の人口の推移と将来人口推計(年齢3区分)



高齢者(65歳以上)の人口の推移と将来推計

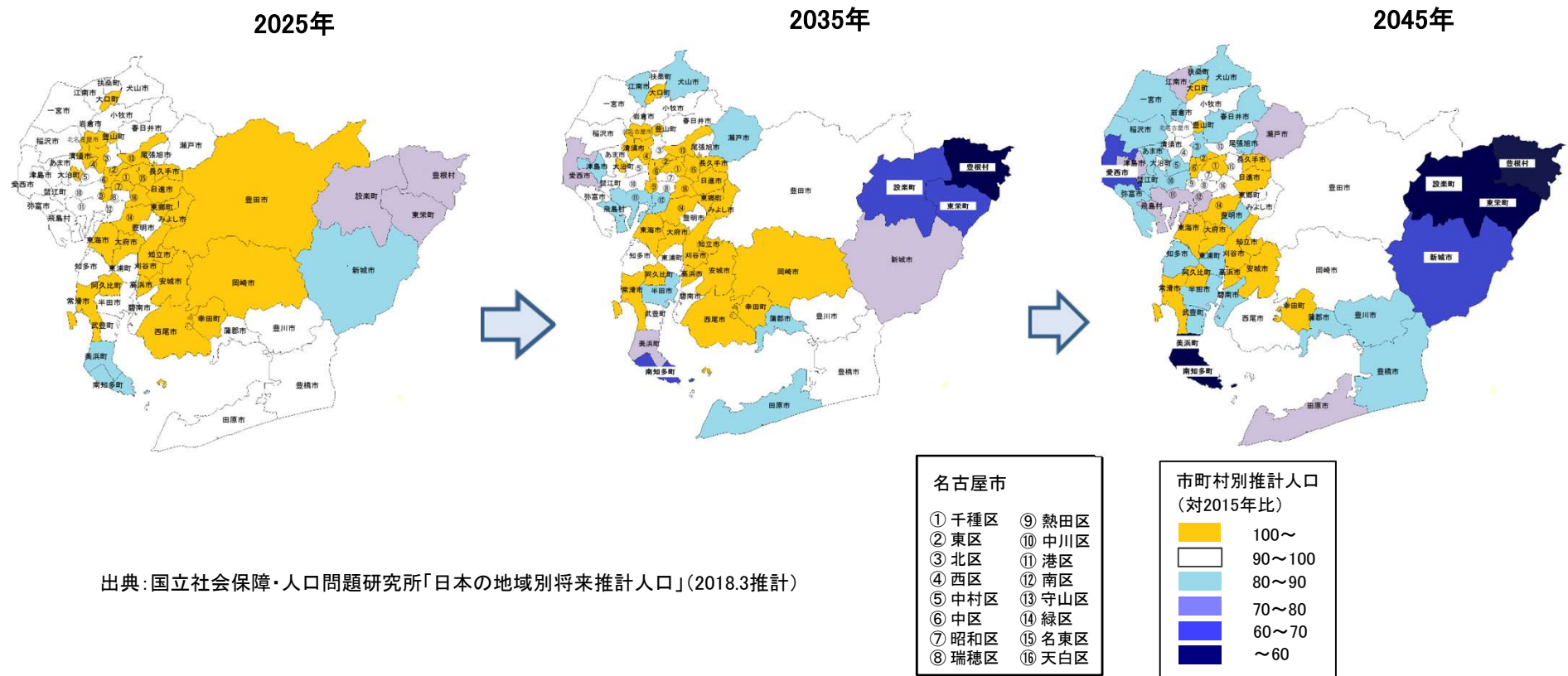


出典: 2015年までは総務省「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成2018年推計)」をもとに作成

市町村別推計人口(社人研推計(2018年3月))



- 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が2018年3月に公表した市区町村別推計人口によると、名古屋市近郊の尾張東部地域や産業が集積する西三河地域などで当面人口増加が続く一方、三河山間地域や知多半島南部などで人口減少が急速に進むことが見込まれている。
- 5年前の社人研推計(2013年3月推計)と比較すると、全体的な傾向は変わらないものの、名古屋市東区や中区といった名古屋都心部や常滑市などが上方修正されている一方、美浜町やみよし市、東郷町などが下方修正されている。

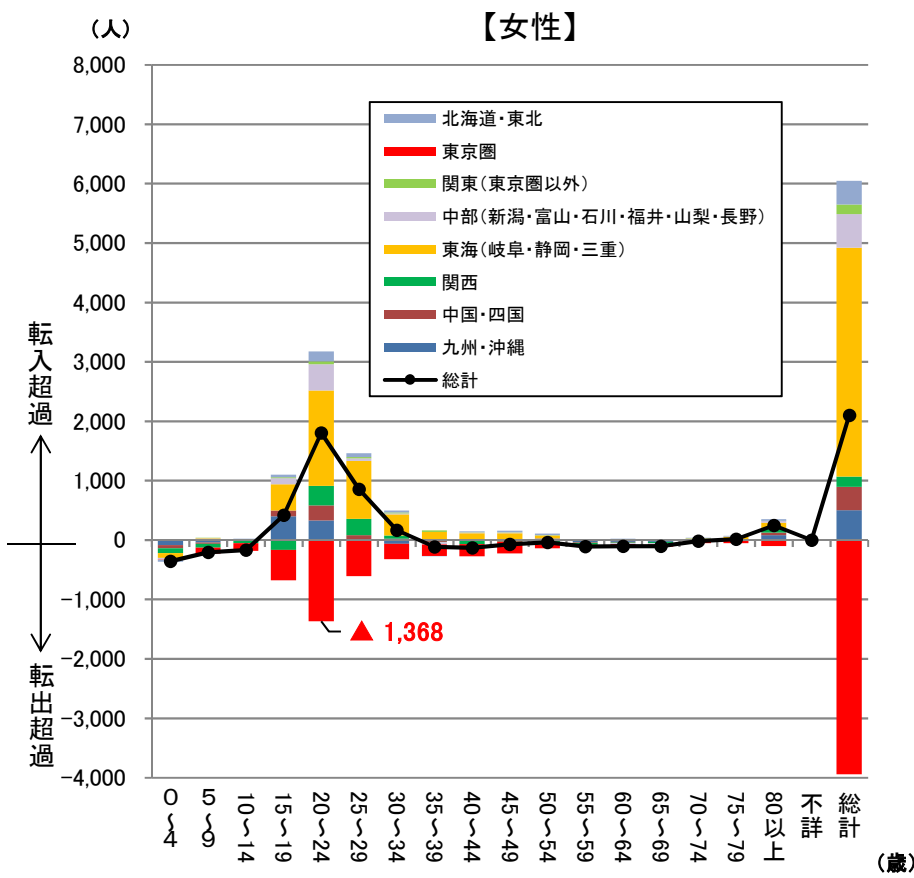
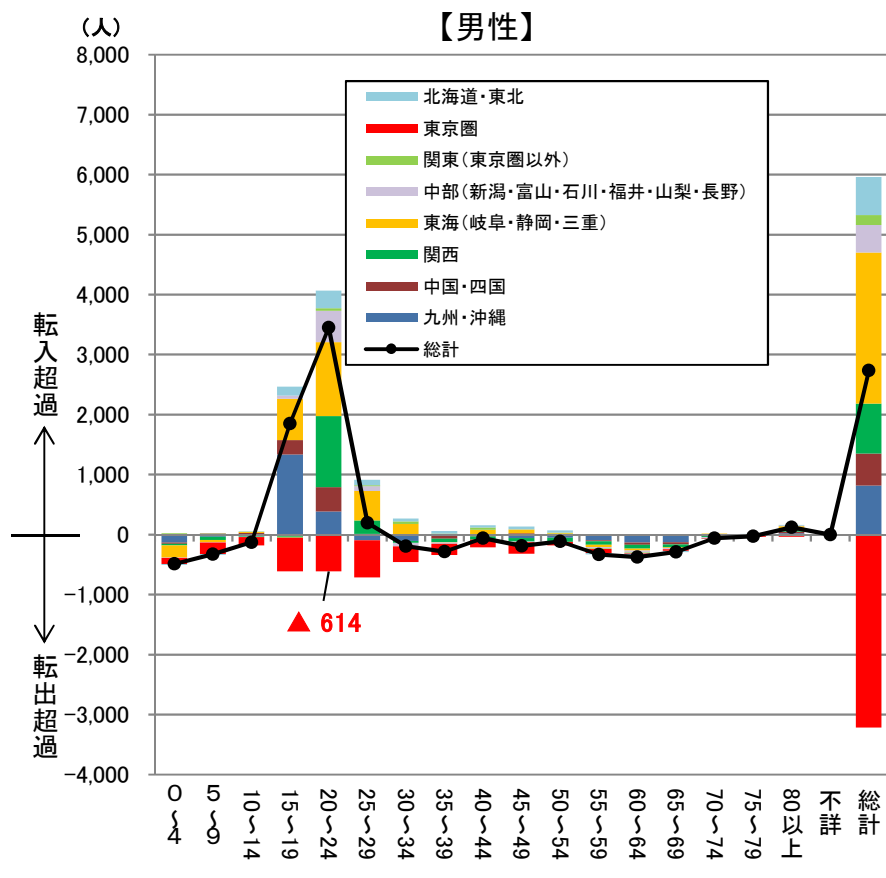


男女・年齢階級別の人口移動の状況



- 男性では、15～29歳で東海、関西、九州・沖縄などを中心に大幅な転入超過となっているが、東京圏(東京・埼玉・千葉・神奈川)に対しては、15～19歳、20歳代で転出超過が他の年齢より大きくなっている。
- 女性では15～29歳で転入超過となっているが、超過数は男性ほど大きくない。東京への転出超過数は男性より大きく、特に大学卒業後の就職時に当たる20代前半が顕著。

本県と地域ブロック別の転出入状況(年齢(5歳階級)、男女別)

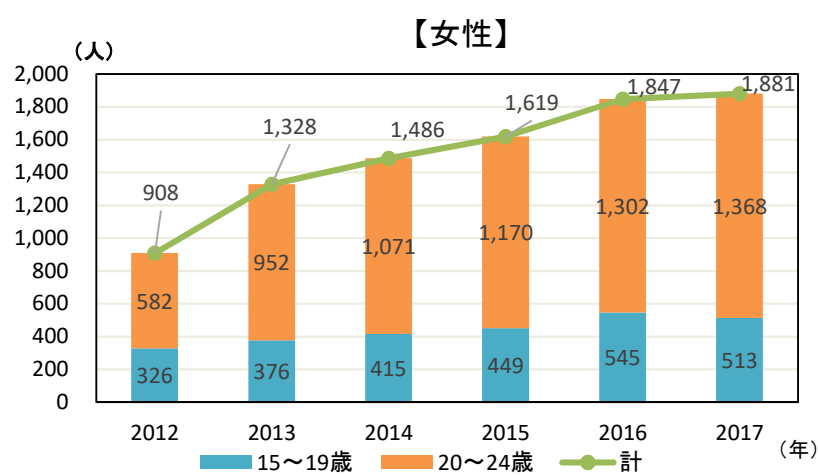
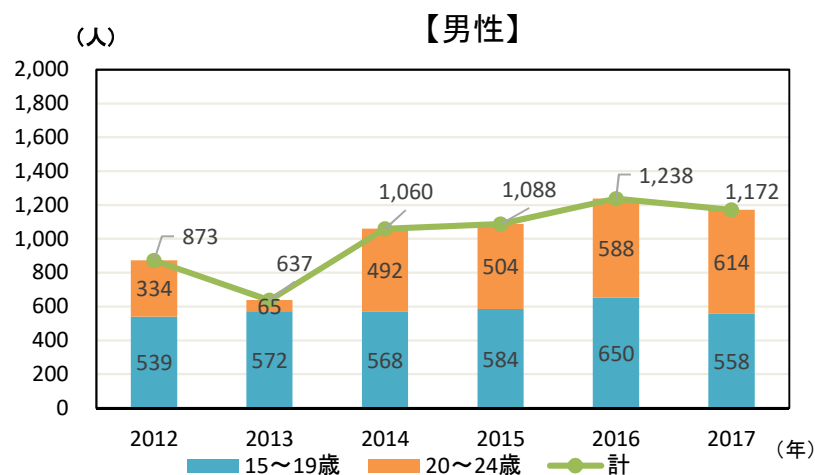
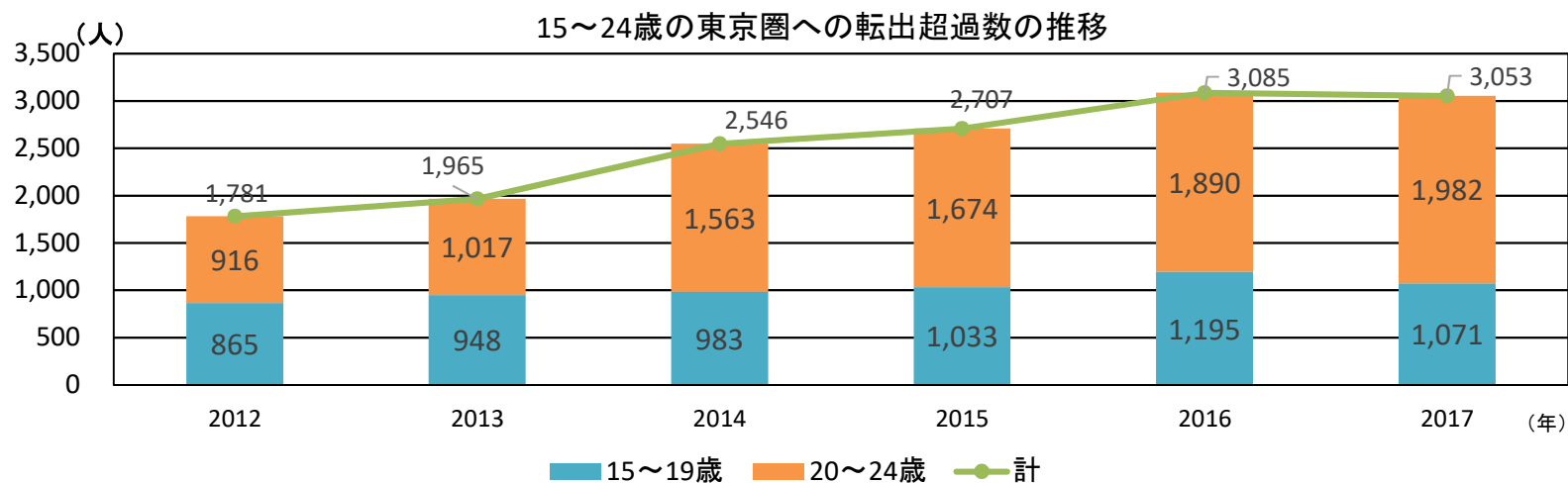


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成※2017年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

15～24歳の東京圏への転出超過数の推移



- 愛知県の15～24歳の東京圏への転出超過数は増加傾向にあり、特に就職期にあたる20～24歳で増加している。
- 男女別にみると、特に女性の増加傾向が顕著となっている。



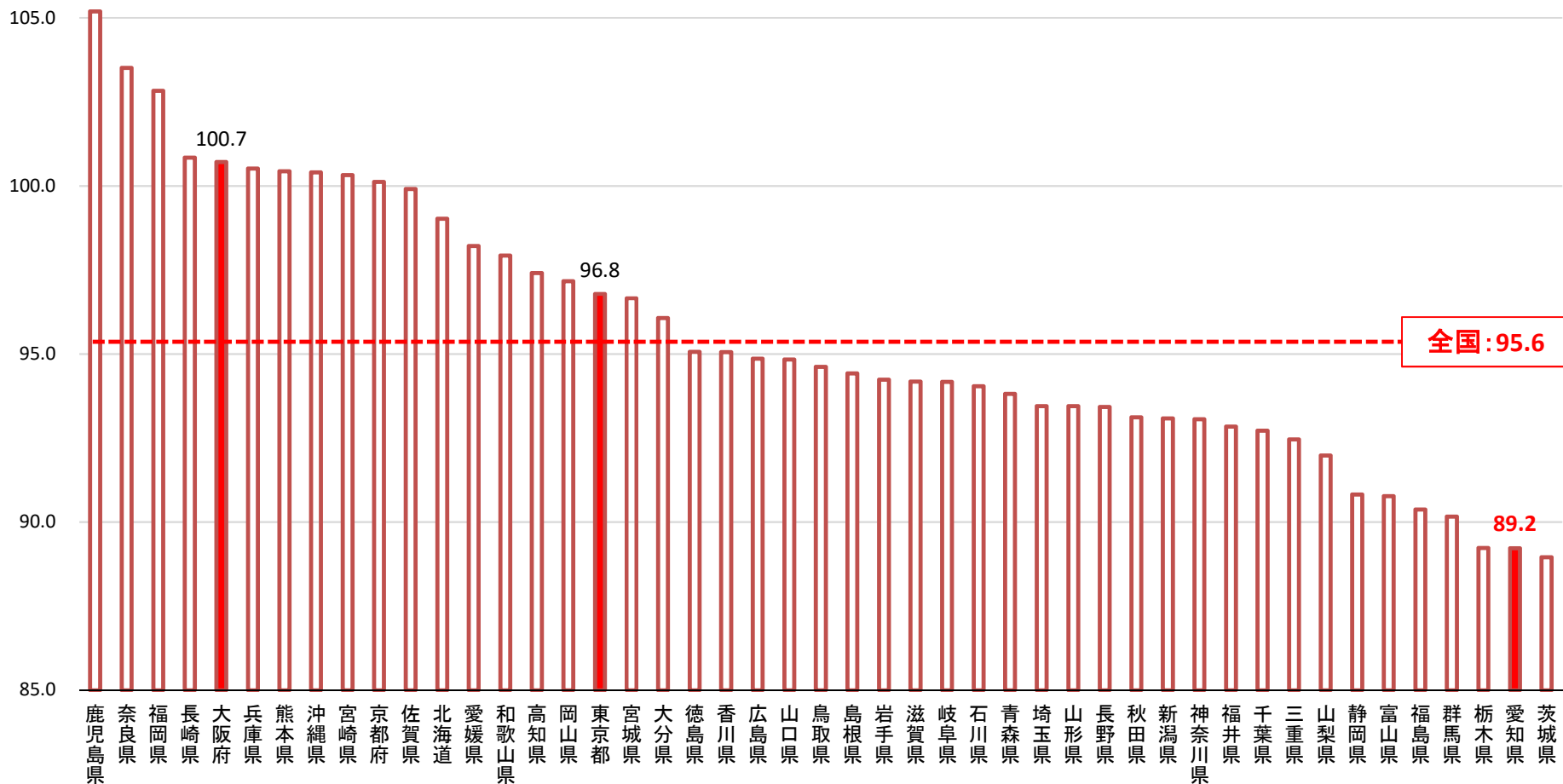
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成※2017年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

人口の男女性比



○ 20～39歳の男性100人に対する同世代の女性数を都道府県別に見ると、愛知県は全国で2番目に少ない。

20～39歳の男性100人に対する同世代の女性数(都道府県別)

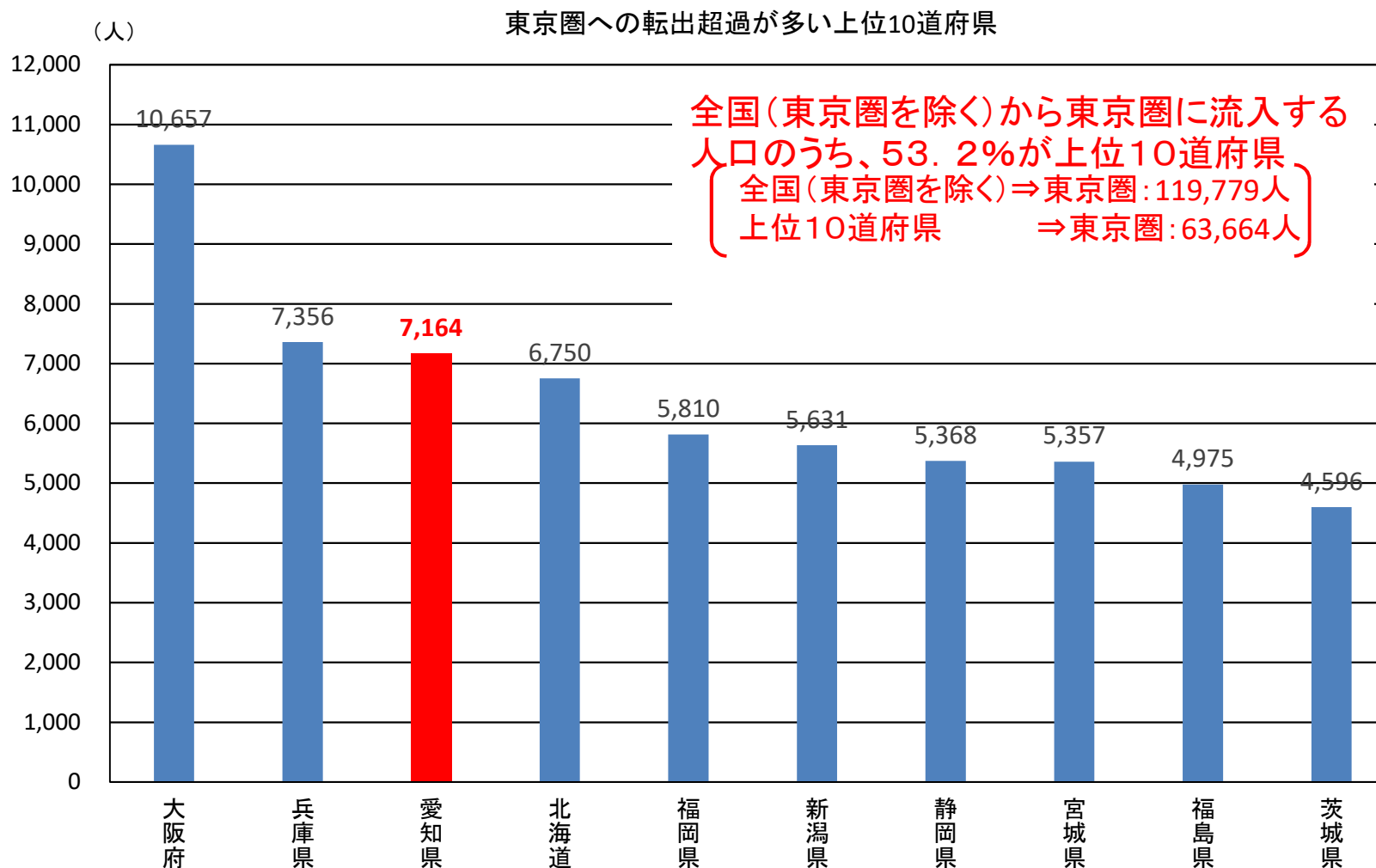


出典:総務省「住民基本台帳に基づく、人口、人口動態及び世帯数調査」もとに作成※2018年1月1日現在、日本人のみ

東京圏への転出超過が多い上位10道府県



- 愛知県の東京圏への転出超過数は7,164人で、全国との比較では大阪府(10,657人)、兵庫県(7,356人)に次いで、3番目に多い。大都市や地方の拠点都市を抱える道府県が上位となっている。

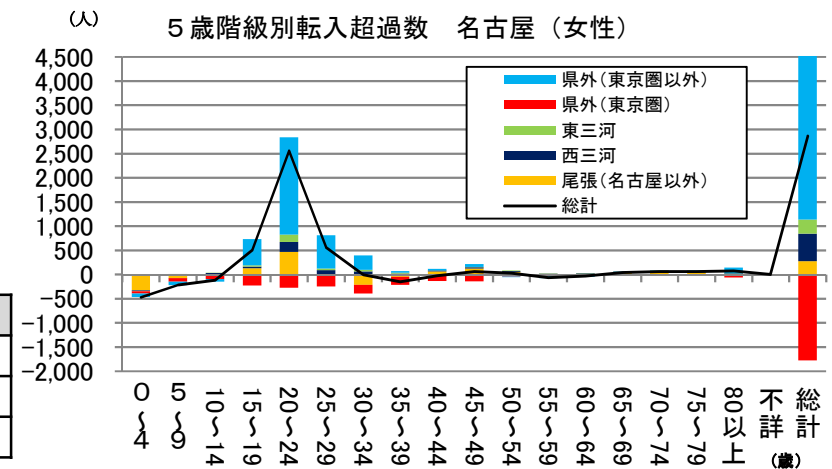
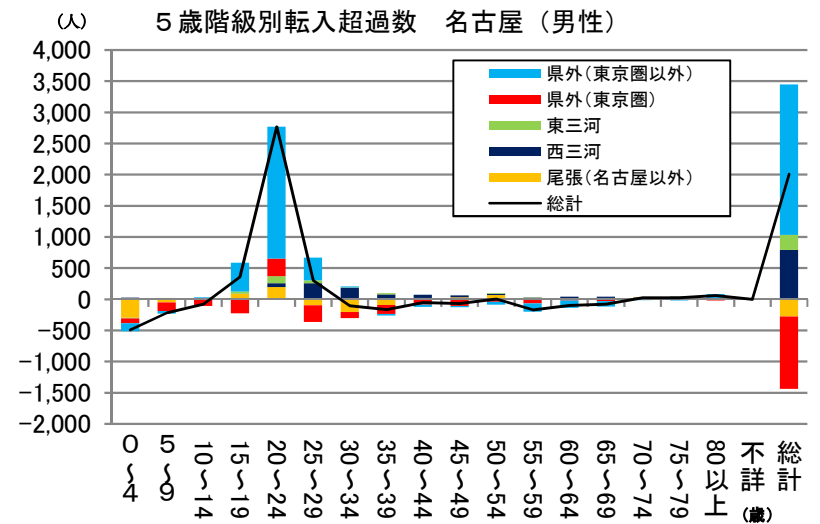
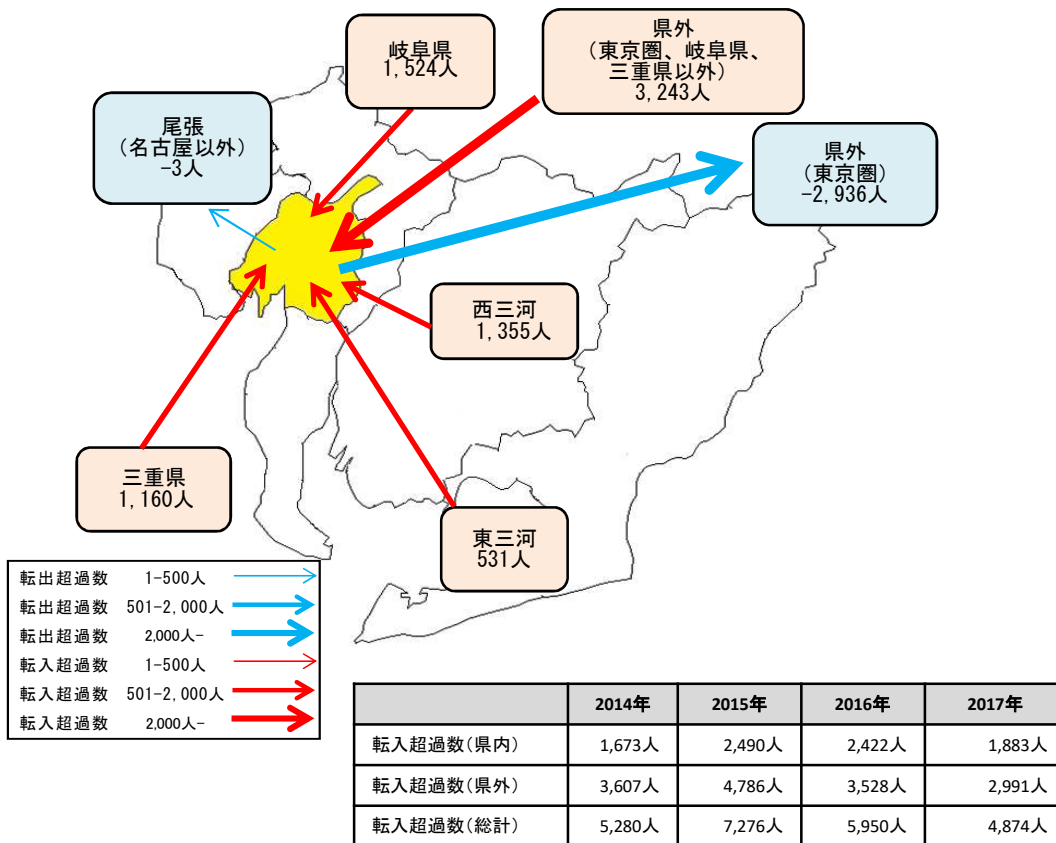


地域別の転出入の状況①(名古屋)



- 名古屋地域の転出入は、4,874人の転入超過となっている。尾張、東京圏以外は県内外全ての地域に対して転入超過となっている。
- 男女ともに、20歳代前半の若者層を中心に転入超過となっている。

名古屋地域における転出入の状況 (2017年)



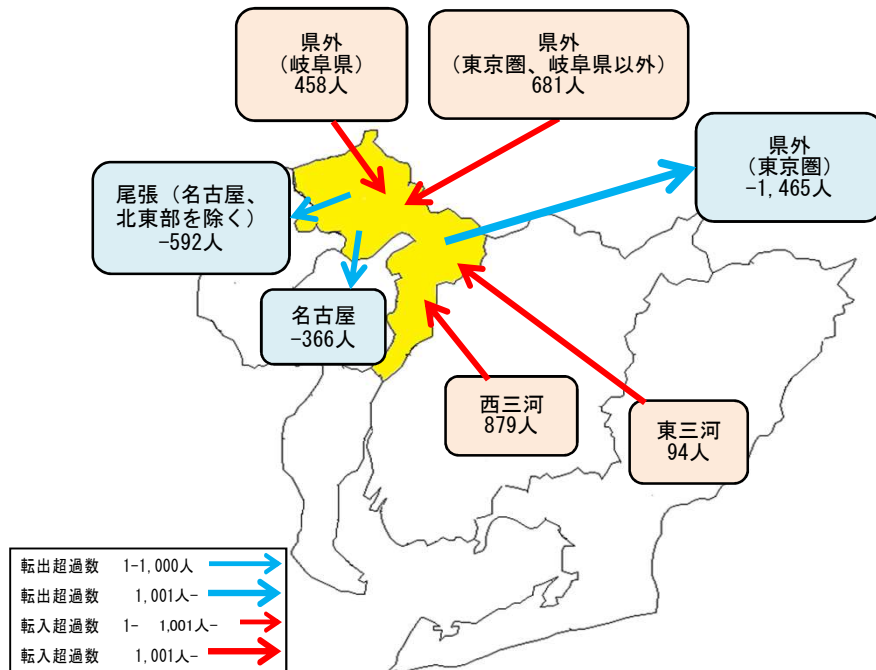
出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成※2017年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

地域別の転出入の状況②(尾張北東部)

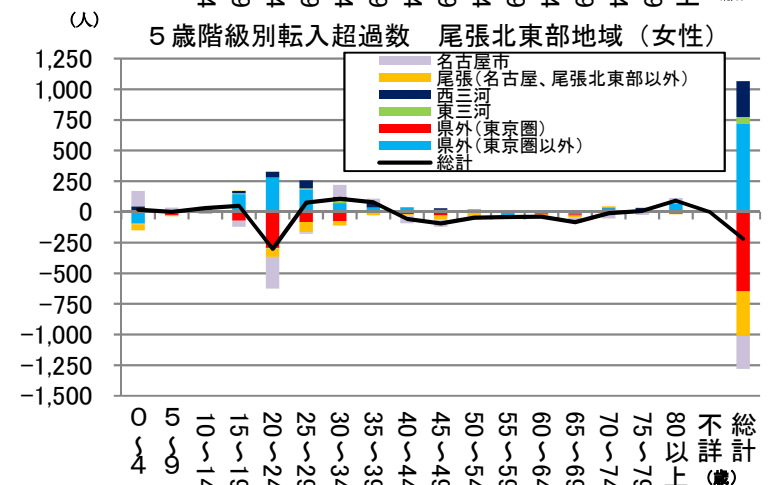
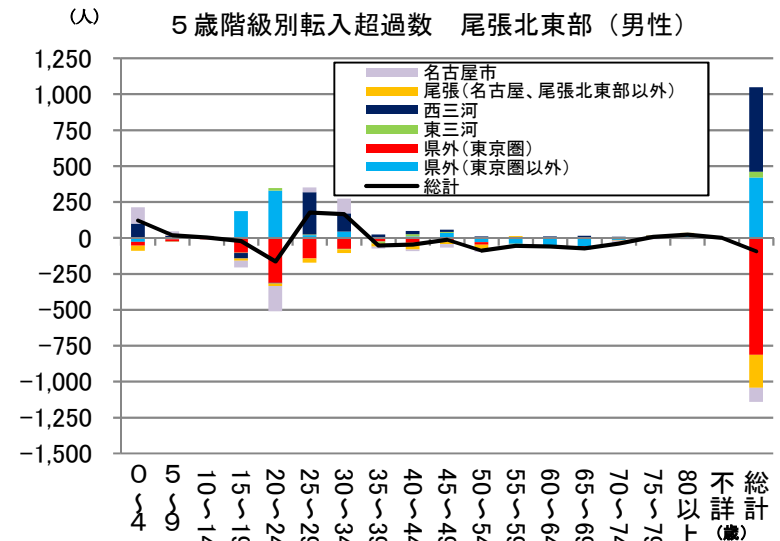


- 尾張北東部地域の転出入は、311人の転出超過となっている。西三河、東三河、東京圏以外の県外に対して転入超過、名古屋、尾張、東京圏に対しては転出超過となっている。
- 男女ともに、20歳代前半が転出超過、20歳代後半から30歳代前半を中心に転入超過となっている。

尾張北東部地域における転出入の状況 (2017年)



	2014年	2015年	2016年	2017年
転入超過数(県内)	1,788人	1,573人	537人	15人
転入超過数(県外)	54人	110人	46人	▲326人
転入超過数(総計)	1,842人	1,683人	583人	▲311人



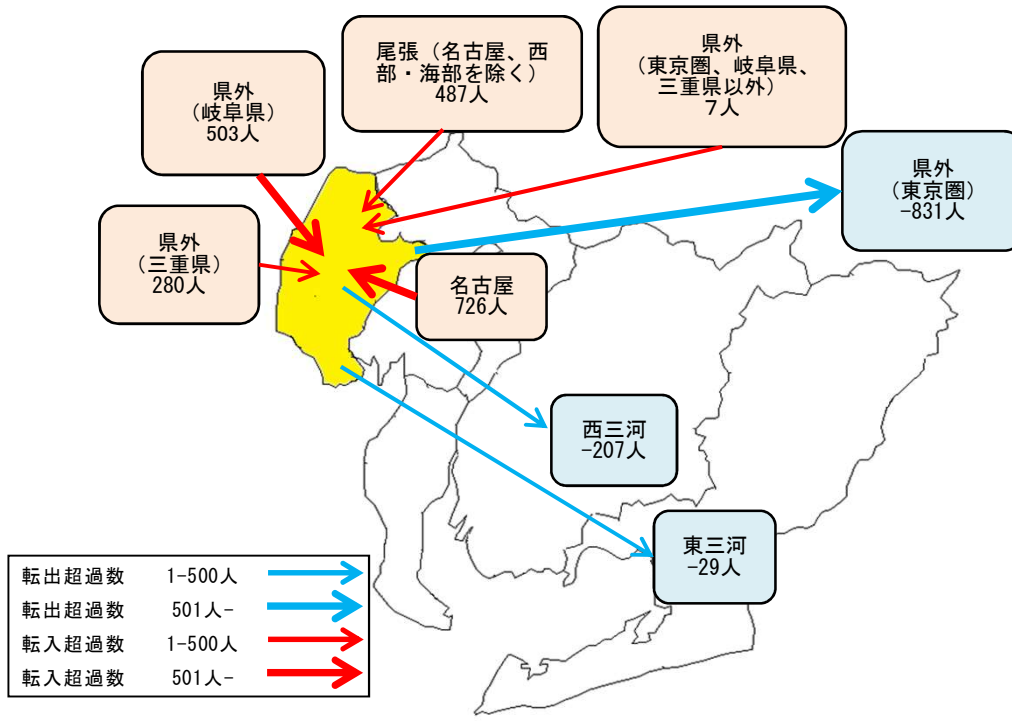
出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成※2017年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

地域別の転出入の状況③(尾張西部・海部)

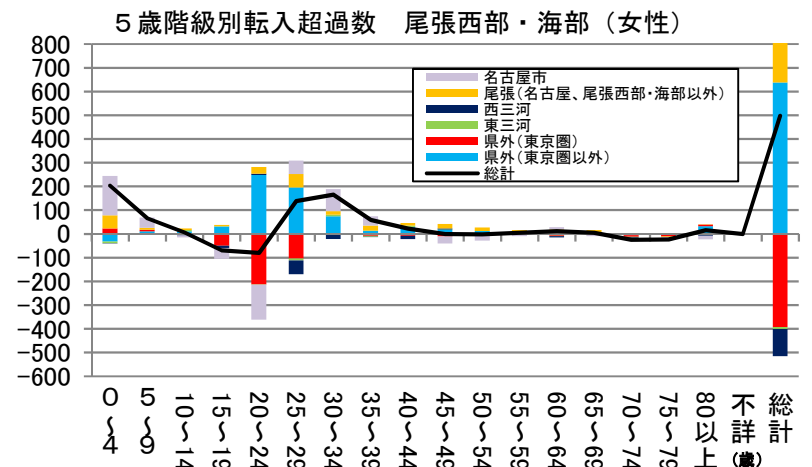
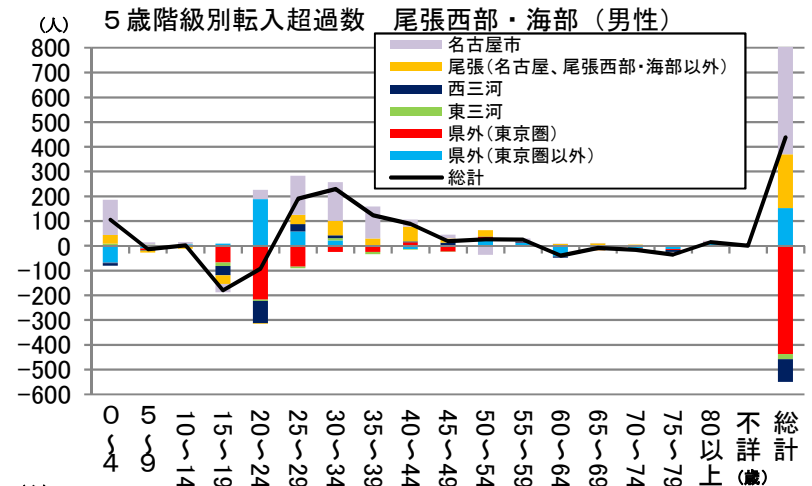


- 尾張西部・海部地域の転出入は、936人の転入超過となっている。名古屋、尾張、東京圏以外の県外に対して転入超過、西三河、東三河、東京圏に対しては転出超過となっている。
- 男女ともに、10歳代後半から20歳代前半を中心に転出超過、20歳代後半から40歳代前半を中心に転入超過となっている。

尾張西部・海部地域における転出入の状況 (2017年)



	2014年	2015年	2016年	2017年
転入超過数(県内)	410人	▲146人	285人	977人
転入超過数(県外)	101人	▲284人	▲74人	▲41人
転入超過数(総計)	511人	▲430人	211人	936人



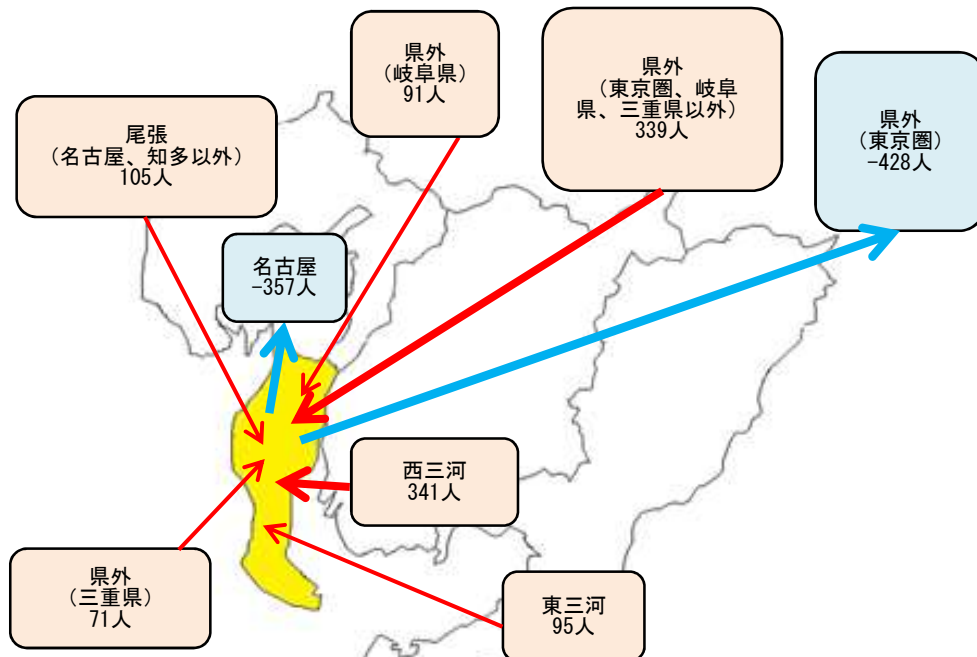
出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成※2017年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

地域別の転出入の状況④(知多)



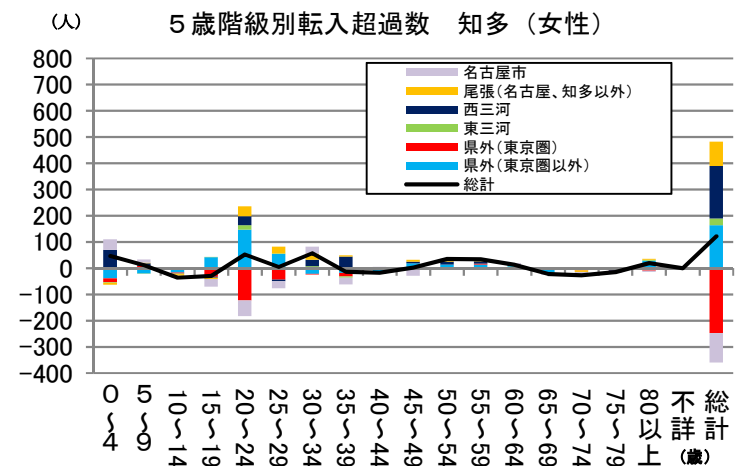
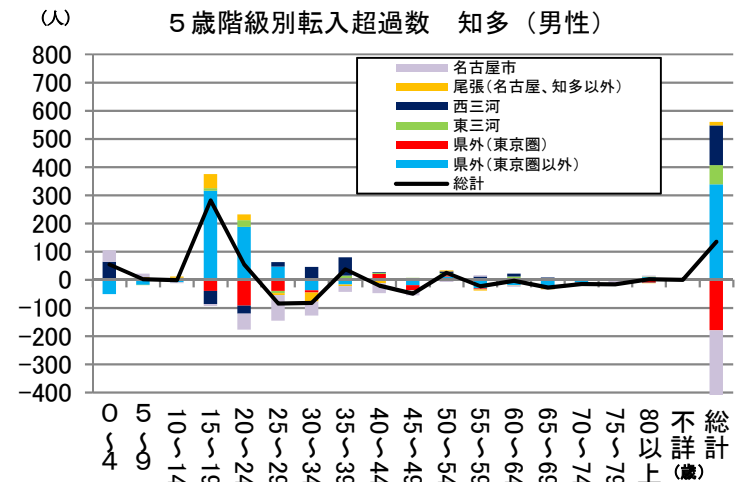
- 知多地域の転出入は、257人の転入超過となっている。尾張、西三河、東三河、東京圏以外の県外に対して転入超過、名古屋、東京圏に対しては転出超過となっている。
- 男性は、10歳代後半から20歳代前半を中心に転入超過となっている。女性は、20歳代前半と30歳代前半を中心に転入超過となっている。

知多地域における転出入の状況 (2017年)



転出超過数 1~200人 →
 転出超過数 201人- →
 転入超過数 1~200人 →
 転入超過数 201人- →

	2014年	2015年	2016年	2017年
転入超過数(県内)	234人	282人	433人	184人
転入超過数(県外)	115人	725人	614人	73人
転入超過数(総計)	349人	1,007人	1,047人	257人



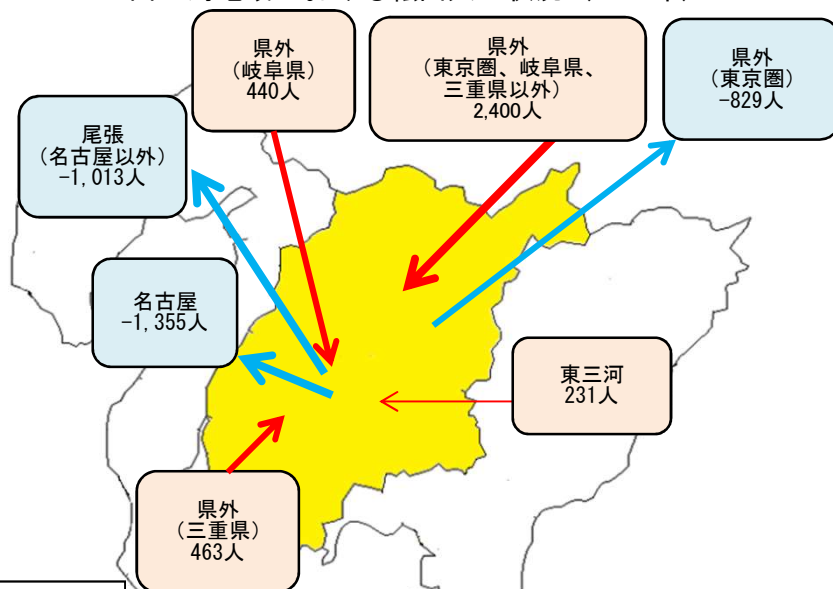
出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成※2017年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

地域別の転出入の状況⑤(西三河)



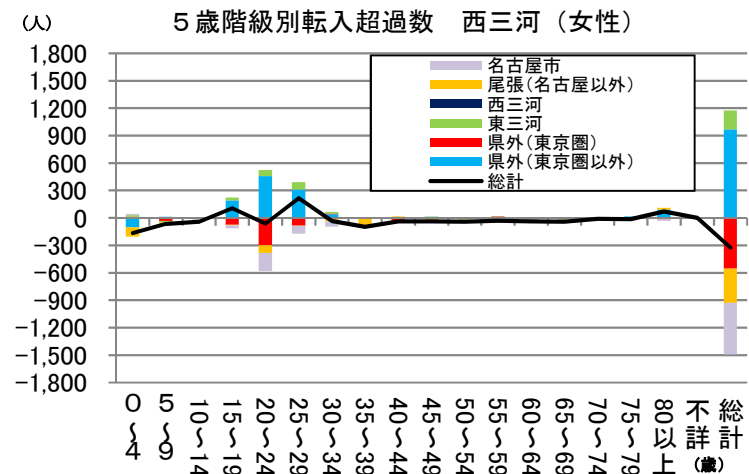
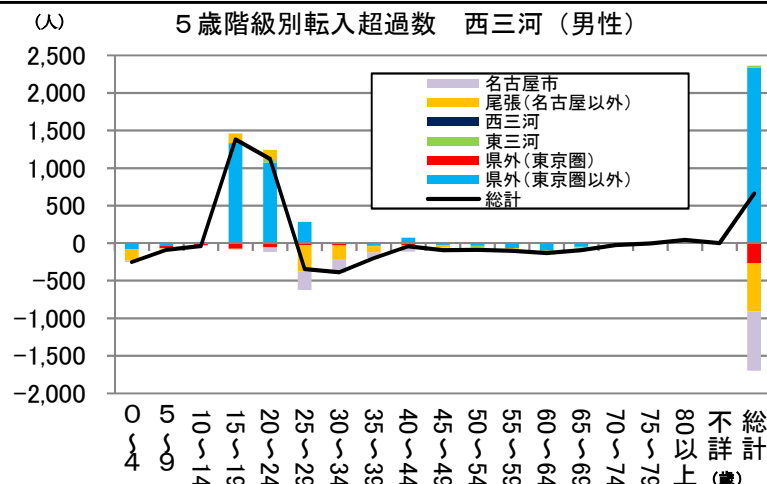
- 西三河地域の転出入は、337人の転入超過となっている。東三河、東京圏以外の県外に対して転入超過、名古屋、尾張、東京圏に対しては転出超過となっている。
- 男性は、10歳代後半から20歳代前半を中心に大幅な転入超過、20歳代後半以降は転出超過傾向となっている。女性は、10歳代後半と20歳代後半が転入超過、30歳代以降は転出超過傾向となっている。

西三河地域における転出入の状況 (2017年)



転出超過数 1~300人	→
転出超過数 301~1,000人	→
転出超過数 1,001人~	→
転入超過数 1~300人	←
転入超過数 301~1,000人	←
転入超過数 1,001人~	←

	2014年	2015年	2016年	2017年
転入超過数(県内)	▲3,265人	▲2,901人	▲2,548人	▲2,137人
転入超過数(県外)	2,677人	3,249人	2,746人	2,474人
転入超過数(総計)	▲588人	348人	198人	337人



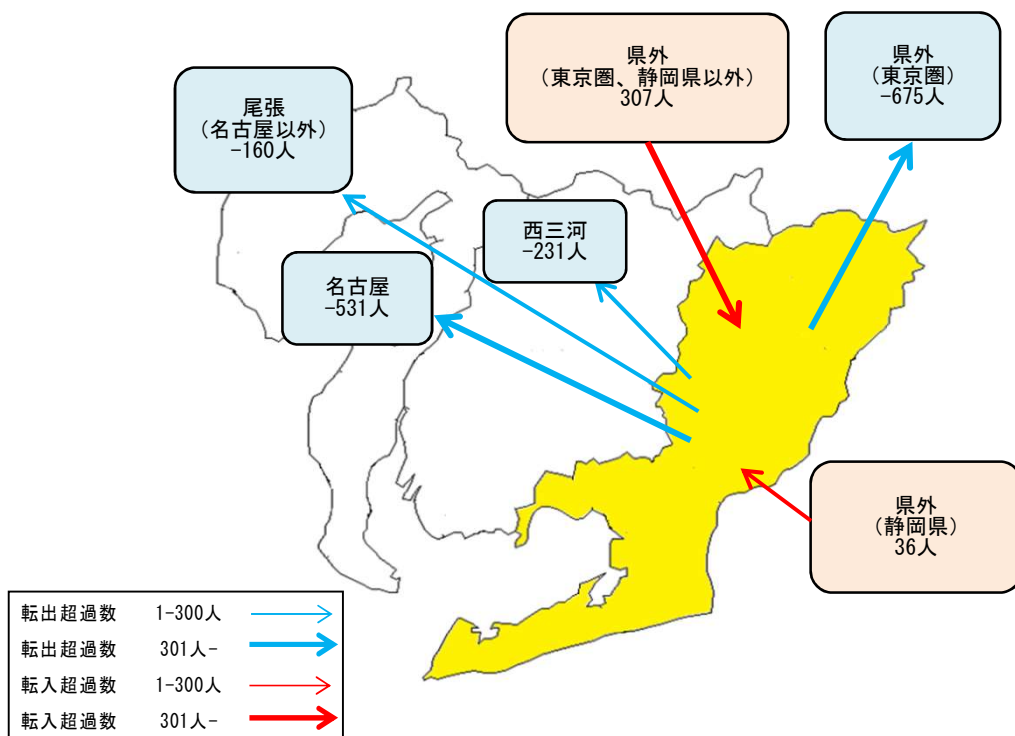
出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成※2017年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

地域別の転出入の状況⑥(東三河)



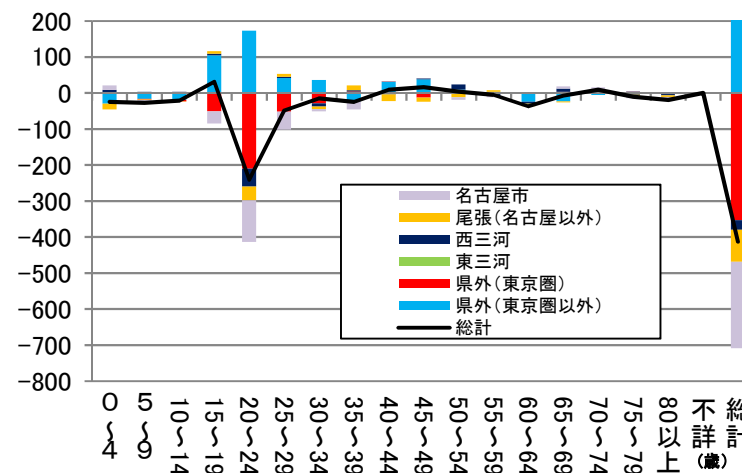
- 東三河地域の転出入は、1,254人の転出超過となっている。東京圏以外の県外に対して転入超過、名古屋、尾張、西三河、東京圏に対しては転出超過となっている。
- 男女ともに、20歳代を中心に転出超過となっている。

東三河地域における転出入の状況 (2017年)

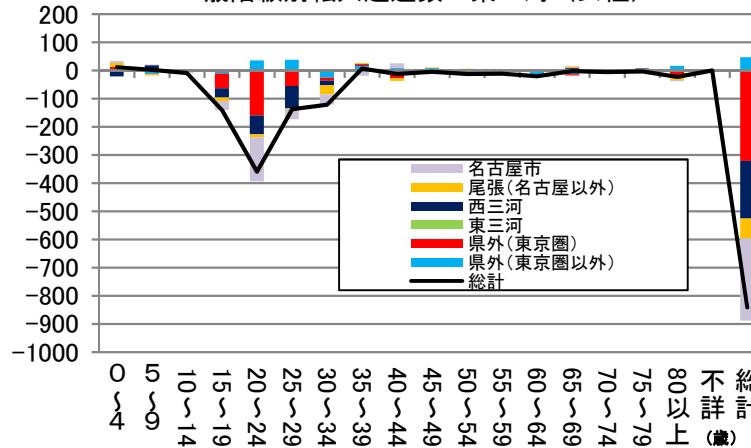


	2014年	2015年	2016年	2017年
転入超過数(県内)	▲840人	▲1,298人	▲1,129人	▲922人
転入超過数(県外)	▲364人	▲264人	▲595人	▲332人
転入超過数(総計)	▲1,204人	▲1,562人	▲1,724人	▲1,254人

(ウ) 5歳階級別転入超過数 東三河 (男性)



(エ) 5歳階級別転入超過数 東三河 (女性)



出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成※2017年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

若年女性の東京圏転出入に関する意識調査



○東京圏※1・愛知県の若年女性を対象に、インターネットアンケートによる意識調査を実施

<概要>

◆実施期間:平成30年1月16日～1月29日

◆対象者:

18歳～39歳の女性で、

- ① 現在、東京圏在住で、愛知県での居住経験※2がある人
- ② 現在、愛知県在住で、東京圏での居住経験※3がある人

◆回答者数:① 東京圏在住者(愛知県での居住経験あり):413人
② 愛知県在住者(東京圏での居住経験あり):202人

※1 東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県の一都三県のこと

※2 高校等卒業時・大学等進学時・大学等卒業後最初の就職時のいずれかで、一度でも「愛知県」での居住経験がある人

※3 高校等卒業時・大学等進学時・大学等卒業後最初の就職時のいずれかで、一度でも「東京圏」での居住経験がある人

○進学時や就職時の意識、現在の暮らしや仕事の満足度などを調査

<主な質問項目>

◆大学等進学時の行動や考え方:

東京圏(又は愛知県)の大学等に進学した理由、誰の意見を参考にしたか など

◆就職時の行動や考え方:

東京圏(又は愛知県)の企業等に就職した理由、就職した際のキャリアに対する考え方 など

◆東京圏・愛知県の魅力・満足度:

働くこと・暮らすことに関する、東京圏(愛知県)で実現できること など

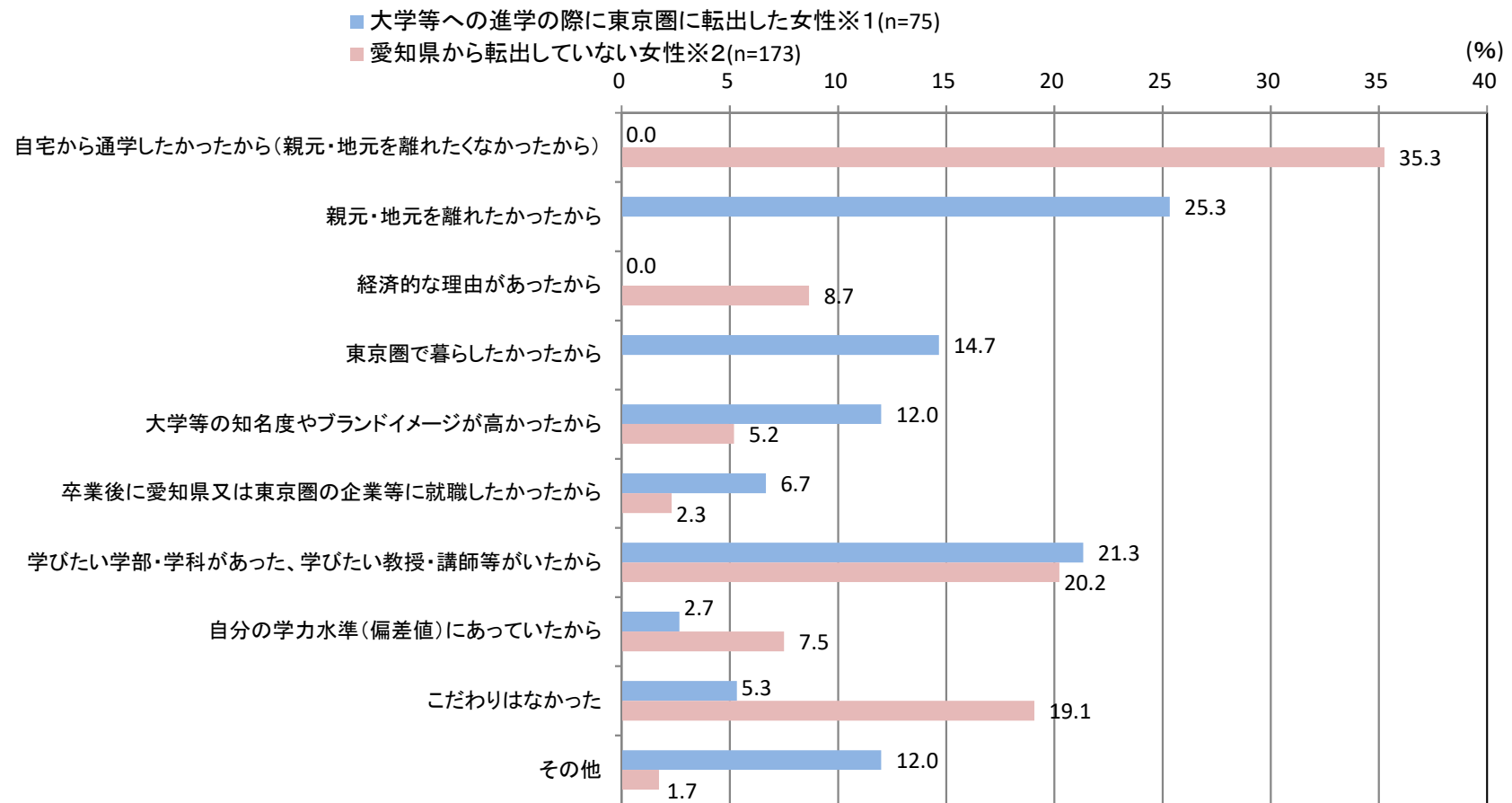
この他に、調査受託者である三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社が、愛知県から転出していない18歳～39歳の女性を対象とした同様の独自調査を実施しており、分析においては、その調査結果も活用している。

大学等進学時の行動や考え方



Q: 進学先を選択した理由

○ 大学等への進学の際に東京圏に転出した女性の進学先の選択理由としては、「親元・地元を離れたかったから」(25.3%)の割合が最も高く、次いで、「学びたい学部・学科があった、学びたい教授・講師等がいたから」(21.3%)、「東京圏で暮らしたかったから」(14.7%)の割合が高い。



※1 高校等卒業時に愛知県に居住、東京圏の大学等に進学、東京圏で就職、現在は東京圏に在住の女性

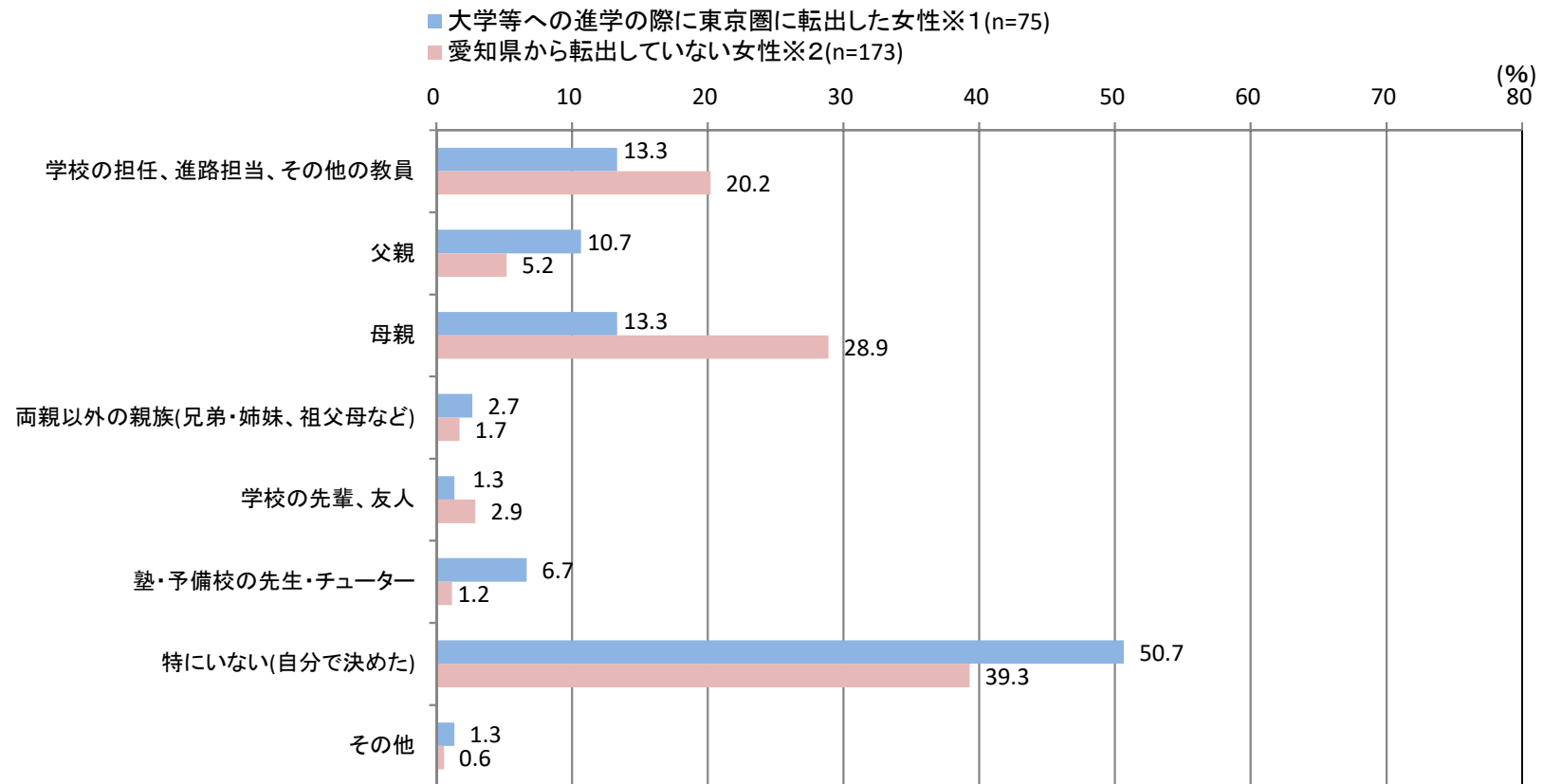
※2 高校等卒業時に愛知県に居住、愛知県の大学等に進学、愛知県で就職、現在は愛知県に在住の女性(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社による独自調査)

大学等進学時の行動や考え方



Q: 進学先を決める際に誰の意見を参考にしたか

○ 進学先を決める際に誰の意見を参考にしたかについて、愛知県から転出していない女性では、「母親」の割合が28.9%と、大学等への進学の際に東京圏に転出した女性よりも高くなっている。



※1 高校等卒業時に愛知県に居住、東京圏の大学等に進学、東京圏で就職、現在は東京圏に在住の女性

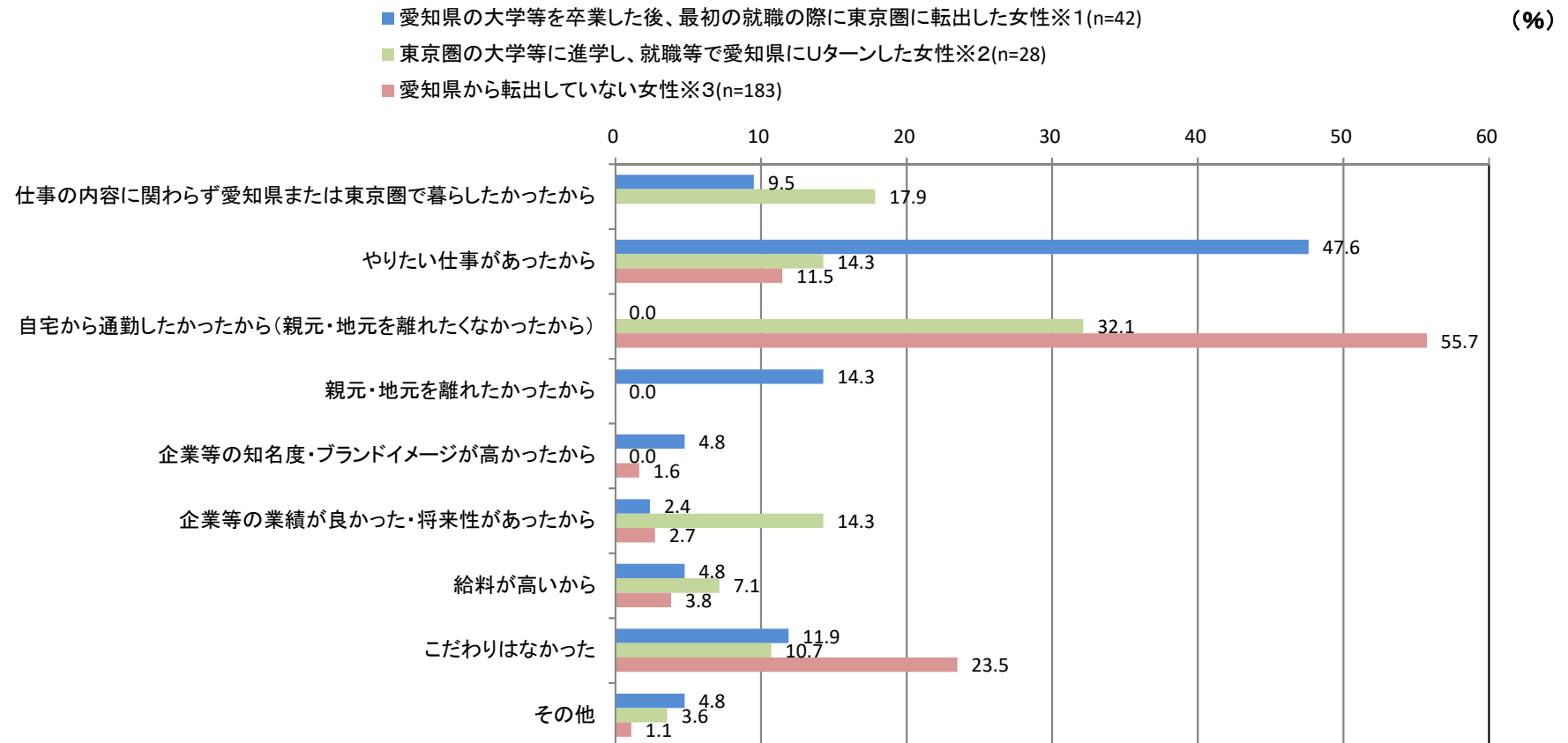
※2 高校等卒業時に愛知県に居住、愛知県の大学等に進学、愛知県で就職、現在は愛知県に在住の女性(三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)による独自調査)

就職時の行動や考え方



Q: 就職先を選択した理由

○ 愛知県の大学等を卒業した後、最初の就職の際に東京圏に転出した女性の就職先の選択理由としては、「やりたい仕事があったから」(47.6%)の割合が最も高く、次いで「親元・地元を離れたかったから」(14.3%)、「こだわりはなかった」(11.9%)、「仕事の内容に関わらず東京圏で暮らしたかったから」(9.5%)の割合が高い。



※1 高校等卒業時に愛知県に居住、愛知県の大学等に進学、東京圏で就職、現在は東京圏に在住の女性

※2 高校等卒業時に愛知県に居住、東京圏の大学等に進学、愛知県で就職、現在は東京圏に在住の女性

※3 高校等卒業時に愛知県に居住、愛知県の大学等に進学、愛知県で就職、現在は愛知県に在住の女性(三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)による独自調査)

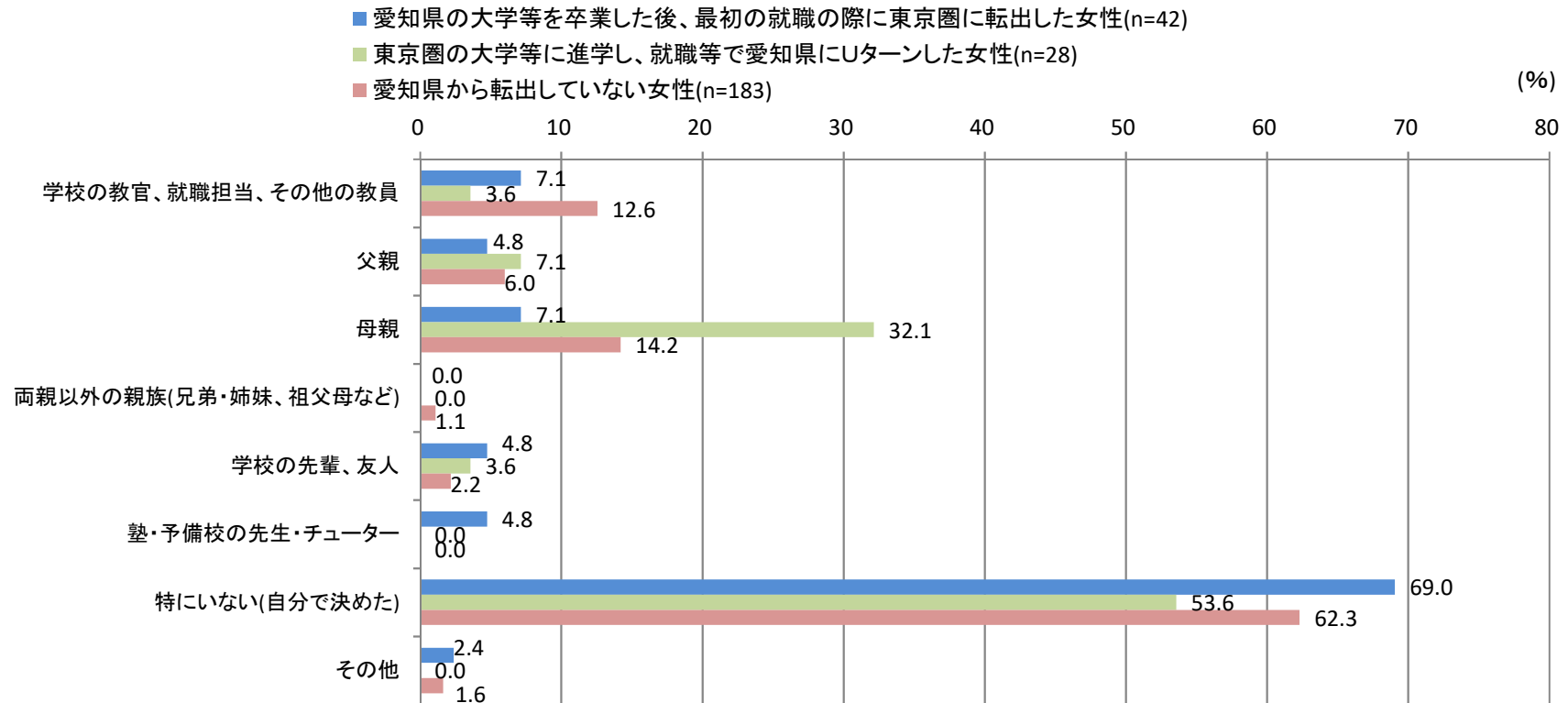
就職時の行動や考え方



Q: 就職先を決める際に誰の意見を参考にしたか。

<最初の就職の際に東京圏に転出した女性※¹、東京圏の大学等に進学し、就職でUターンした女性※²、愛知県から転出していない女性※³の比較>

○ 就職先を決める際に誰の意見を参考にしたかについて、最初の就職の際に東京圏に転出した女性では、7割程度が「特にない(自分で決めた)」と回答しているのに対し、東京圏の大学等に進学し、就職でUターンした女性では、「特にない(自分で決めた)」は5割強に留まり、「母親」の割合が32.1%と高くなっている。



※¹ 高校等卒業時に愛知県に居住、愛知県の大学等に進学、東京圏で就職、現在は東京圏に在住の女性

※² 高校等卒業時に愛知県に居住、東京圏の大学等に進学、愛知県で就職、現在は東京圏に在住の女性

※³ 高校等卒業時に愛知県に居住、愛知県の大学等に進学、愛知県で就職、現在は愛知県に在住の女性(三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)による独自調査)

就職時の行動や考え方

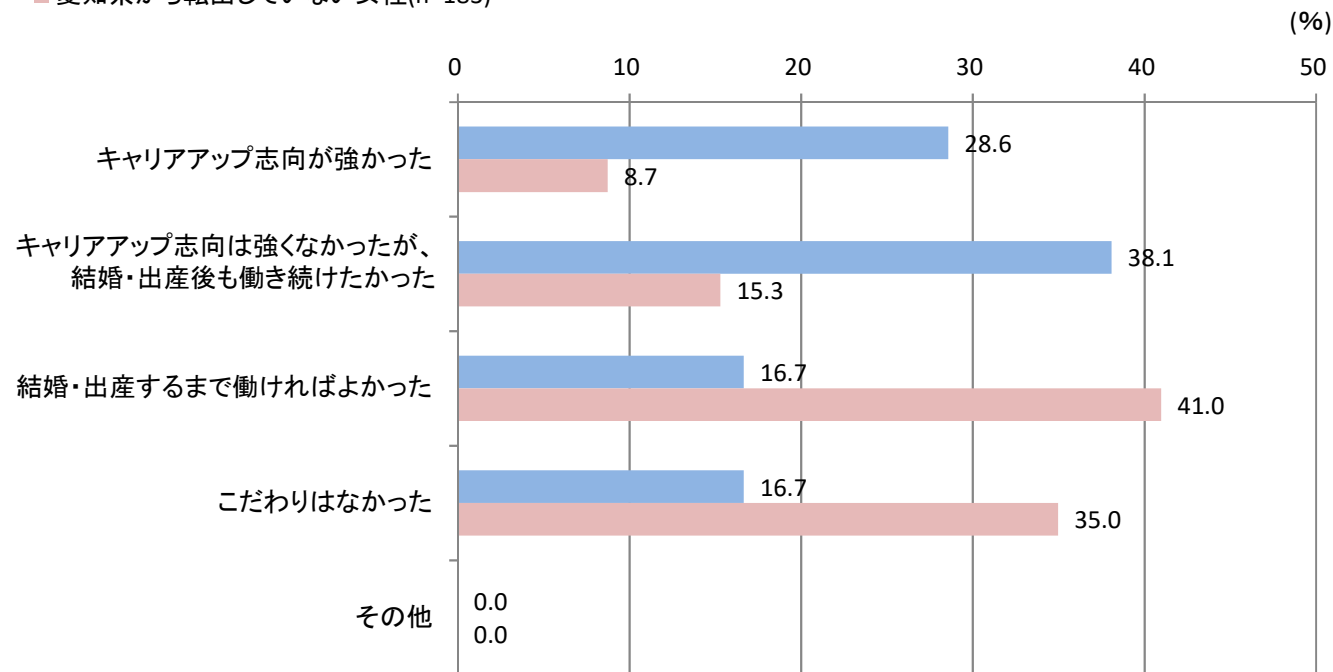


Q: 就職時のキャリア形成に対する考え方

<最初の就職の際に東京圏に転出した女性※1と愛知県から転出していない女性※2の比較>

○ 就職当時のキャリア形成に対する考え方について、愛知県の大学等を卒業した後、最初の就職の際に東京圏に転出した女性は、転出していない女性に比べ、「キャリアアップ志向が強かった」(28.6%)、「キャリアアップ志向は強くなかったが、結婚・出産後も働き続けたかった」(38.1%)の割合が高い。

■ 愛知県の大学等を卒業した後、最初の就職の際に東京圏に転出した女性(n=42)
■ 愛知県から転出していない女性(n=183)



※1 高校等卒業時に愛知県に居住、愛知県の大学等に進学、東京圏で就職、現在は東京圏に在住の女性

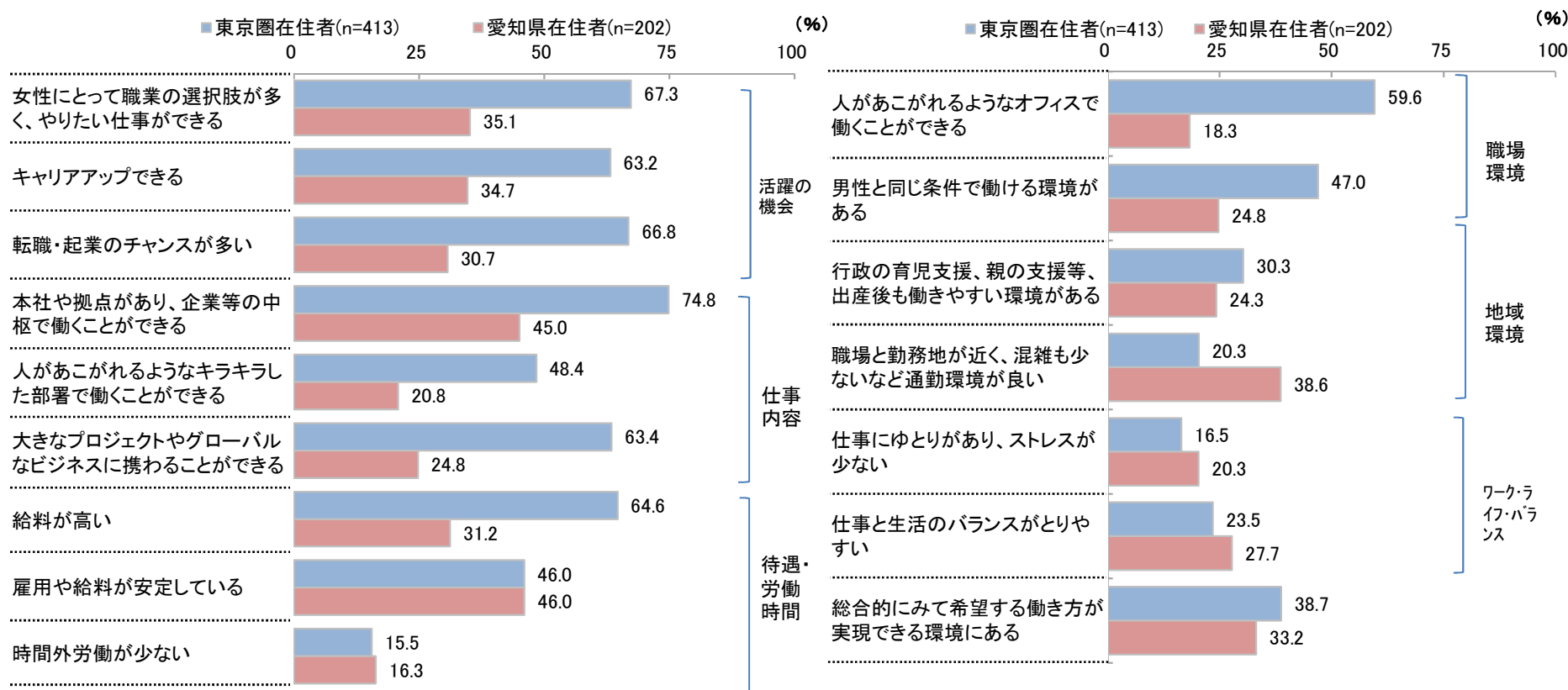
※2 高校等卒業時に愛知県に居住、愛知県の大学等に進学、愛知県で就職、現在は愛知県に在住の女性(三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)による独自調査)

働く環境について



Q: 東京圏又は愛知県で働くことに関する各項目について、実現できる環境が整っていると思うか。

- 東京圏では、「本社や拠点があり、企業等の中枢で働くことができる」、「女性にとって職業の選択肢が多く、やりたい仕事ができる」、「転職・起業のチャンスが多い」など、仕事の内容や活躍の機会、職場環境に関する項目で愛知県を大きく上回っている。
- 一方で、愛知県では、「雇用や給料が安定している」、「本社や拠点があり、企業等の中枢で働くことができる」、「職場と勤務地が近く、混雑も少ないなど通勤環境が良い」などが上位に挙げられており、通勤環境の良さやワーク・ライフ・バランスに関する項目で東京圏を上回っている。



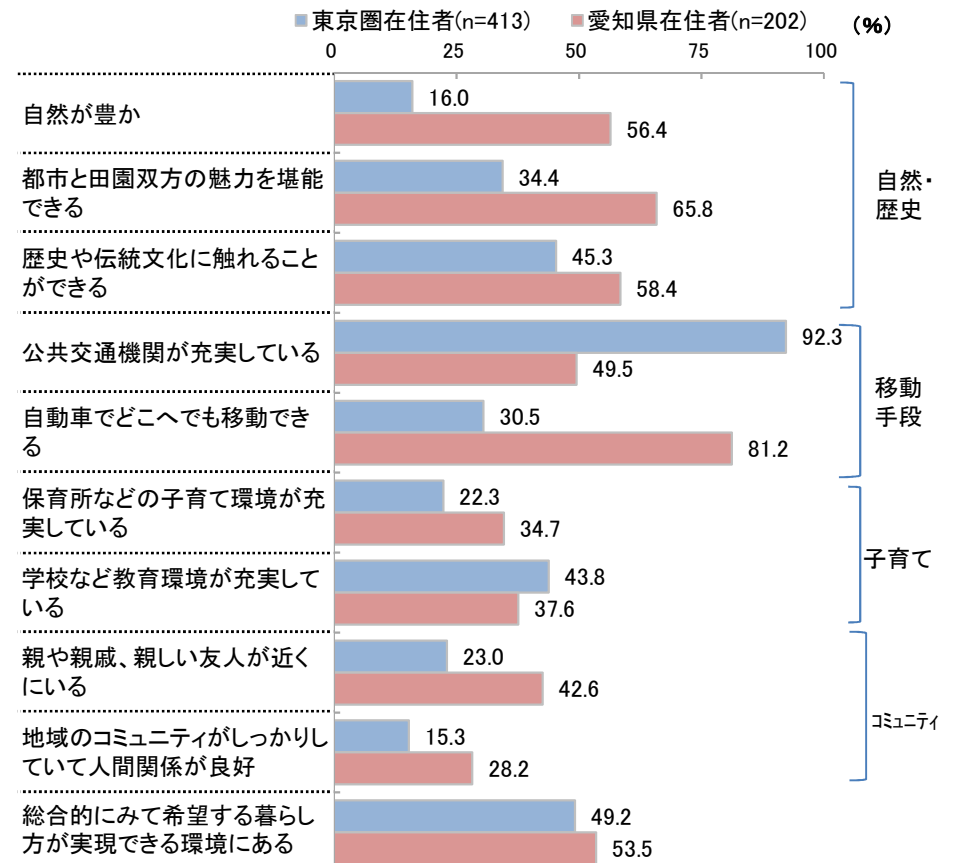
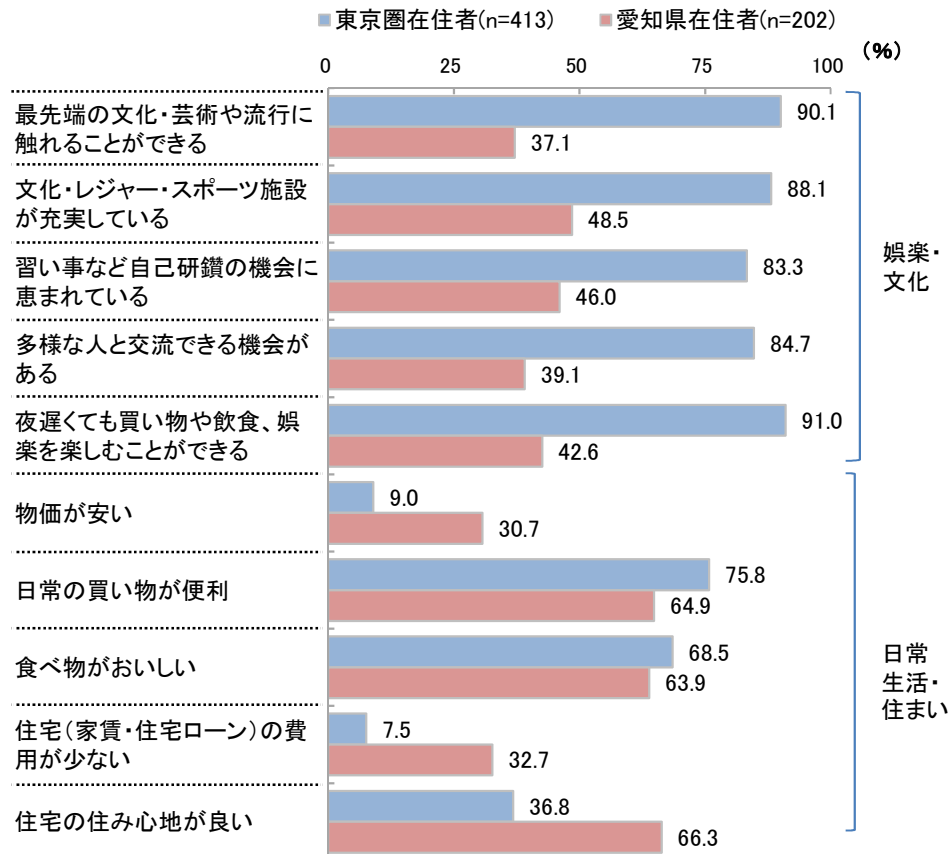
※ 各回答割合は、質問に対して、「思う」または「やや思う」と回答した割合の計

暮らす環境について



Q: 東京圏又は愛知県で暮らすことに関する各項目について、実現できる環境が整っていると思うか。

- 暮らす環境が整っているかについて、東京圏では「公共交通機関が充実している」のほか、「夜遅くても買い物や飲食、娯楽を楽しむことができる」、「最先端の文化・芸術や流行に触れることができる」など、娯楽・文化に関する項目で愛知県を大きく上回っている。
- 一方、愛知県では、「自動車でもどこへでも移動できる」、「住宅の住み心地が良い」、「都市と田園双方の魅力を堪能できる」などで、東京圏を大きく上回っている。



※ 各回答割合は、質問に対して、「思う」または「やや思う」と回答した割合の計